

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科 日本言語文化専攻

2012年 日本語教育実習報告書

鷺見 幸美（監修）

目次

第1章 概要	1
1.1 はじめに	1
1.2 担当実習生	1
1.3 実習の特徴	1
1.4 実習の概要	2
1.5 特別活動の概要	2
1.6 実習全体の流れ	3
第2章 係の分担と仕事内容	4
2.1 受付	4
2.2 事後アンケート	4
2.2.1 事後アンケート概要	4
2.2.2 事後アンケートの計画・作成	5
2.2.3 事後アンケートの実施	7
2.2.4 良かった点・反省点	7
2.3 書記	7
2.3.1 実習生会議	8
2.4 ウェブ	8
2.5 オリエンテーション	9
2.5.1 事前準備の流れ	9
2.5.2 オリエンテーションの概要	9
2.5.3 アイスブレイキング	10
2.5.4 まとめ	10
2.6 パーティー	11
2.6.1 ティー・パーティーの概要	11
2.6.2 イラスト当てゲーム、単語当てゲーム	11
2.6.3 ビデオレター上映、TAに色紙・DVD（ビデオレター）贈呈	12
2.6.4 皆勤賞プレゼント	12
2.6.5 事前の準備の流れ	12
2.6.6 まとめ	13
第3章 参加者募集と事前準備	14
3.1 参加者募集	14
3.1.1 参加者募集係の仕事	14
3.1.2 参加者募集の流れ	14
3.1.3 チラシ作成	15
3.1.4 申し込み用紙の作成	15
3.1.5 まとめ	16
3.2 事前準備	17

3.2.1	学習者情報	17
3.2.2	物品購入	18
第4章	クラス概要	20
4.1	全体スケジュール	20
4.1.1	事前に設定したスケジュールについて	20
4.1.2	授業のビデオ撮影について	22
4.2	通常クラス	22
4.3	特別活動	43
4.4	特別活動の反省と改訂	49
第5章	事後アンケートの結果	51
5.1	はじめに	51
5.2	事後アンケート結果	51
5.3	事後アンケートの結果を踏まえて	55
第6章	まとめ	56

資料（HPに掲載）

資料1「実習全体の流れ」

資料2「名古屋大学東山キャンパスの地図（日本語版）」

資料3「名古屋大学東山キャンパスの地図（英語版）」

資料4「授業についてのアンケート」

資料5「日本語学習の記録」

資料6「議事録」

資料7「実習のチラシ」

資料8「申し込み用紙」

資料9「ビデオカメラとその映像データの取り扱いについて」

第1章 概要

1.1 はじめに

本報告書は、2012年名古屋大学日本語教育実習についてまとめたものである。この実習では、学習者募集、コースデザイン、本報告書の作成など、すべて実習生が行った。

まず、本章では実習の特徴やコースの概要、スケジュールなど、実習全体の概要を述べる。次に第2章では、実習生が分担した各係の仕事内容について説明する。第3章では、参加者募集に関すること、事前に行った準備について、そして第4章では、通常クラスのシラバスや授業内容、そして特別活動について詳述する。最後に、第5章でコース終了時に行ったアンケート調査の結果をまとめ、実習全体の総括を第6章で述べる。

1.2 担当実習生

2012年名古屋大学日本語教育実習に参加した実習生は以下の8名である。実習生のうち、6名は国際言語文化研究科日本語文化専攻博士前期課程1年の学生、2名は博士後期課程の学生である。

実習生(8名)：飯田香織、飯田理恵子、梶原彩子、川口治花
久野百代、高橋暦、筒井紀衣、梁辰

TA(4名)：石黒利江子、入江友理、國澤里美、田中典子

1.3 実習の特徴

本実習の特徴は以下の10点である。

- ①春期休暇中の3週間に渡って行われるコースである。
- ②初級文型を復習しながら、話すこと・日本で生活する上で必要な言語能力を身につけることを目標にしたコースである。
- ③対象者はG30bクラス、初級日本語特別コース(初級・初中級)、全学日本語集中コース(初級IⅡ)の学習者に絞り募集を行う。
- ④最終週に日本語での発表活動を実施し、よい発表について考え、日本語で発表及び質疑応答ができるようになることを目標とした特別活動を行う。
- ⑤教材については、実習生はTAのサポートのもと担当部分を自主作成する。
- ⑥実習生2名とTA1名が1チームとなり、初めの2週はTAのアドバイスのもとで1チームで1日(90分×3コマ)を担当する。最後の1週は実習生のみで授業を行う。

- ⑦学習目標の決定は実習希望者・非希望者が一緒に授業内（日本語教授法概論 b）に行う。
- ⑧各日の学習項目の設定は実習生のみで行う。
- ⑨担当日にはメーリングリストに簡潔に授業報告を流す。(ML 立上げ: 鷲見先生) 諸々の連絡もこのメーリングリストを使用する。
- ⑩実習期間中、TA は次のような役割を担う。(各課の授業計画立案の手助け・相談、実習生が担当する部分以外の授業の担当、模擬授業の指導、授業後の振り返り、見学の受け入れ、授業時間中のフォロー、実習生授業のビデオ設置・撮影)

1.4 実習の概要

以下が今回の実習で行うコースの概要である。

期 間：2012年2月13日（月）～3月1日（木）

時 間：9：00-14：30

教 室：文系総合館 6階 609号室

時間割：

第1週	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
日付	2/13（月）	2/14（火）	2/15（水）	2/16（木）	2/17（金）
担当 TA	入江	石黒	國澤	石黒	田中
実習生	飯田か・久野	川口・筒井	飯田り・梶原	川口・筒井	高橋・梁
第2週	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目
日付	2/20（月）	2/21（火）	2/22（水）	2/23（木）	2/24（金）
担当 TA	入江	國澤	田中	國澤	入江
実習生	飯田か・久野	飯田り・梶原	高橋・梁	飯田り・梶原	飯田か・久野
第3週	11日目	12日目	13日目	14日目	
日付	2/27（月）	2/28（火）	2/29（水）	3/1（木）	
担当 TA					
実習生	飯田か・久野	川口・筒井	高橋・梁	川口・筒井	

1.5 特別活動の概要

10日目～13日目（2/24～2/29）の3時間目（90分×4日）、14日目の1、2時間目は特別活動として「発表」に焦点を当てた活動を行った。14日目の2時間目にはその活動の集大成として、皆の前で「地震」についての発表活動を行った。総42コマの内、特別活動に6時間を当てた。（1コマは最終日パーティー）特別活動の詳細については第4章の4.3で詳述する。

1.6 実習全体の流れ

12月から実習終了までの全体の流れはスケジュール表通りである。実習生全体で行った活動は「授業外」、今回の実習は、日本語教授法概論 a.b の授業と連動していたため、授業中に行った活動は、「授業内」の欄に記入してある。各授業のペアが行った活動は「各授業ペア」の欄に、係で行った活動は「各係」の欄に記入した。表内の略記については以下の通りである。

(ミ) : ミーティング	(オ) : オリエンテーション係	(募) : 学習者募集係
(ウ) : ウェブ係	(事後) : 事後アンケート係	(パ) : パーティー係

実習全体の流れについては、資料 1 「実習全体の流れ」を参照のこと。

(文責 : 梶原)

第2章 係の分担と仕事内容

2.1 受付

受付係の主な仕事は、学習者への連絡である。学習者への連絡は3回に渡り行った。以下の通りである。

	日にち	手段	内容
1回目	応募の締め切り後 (2月7日)	Eメール	応募の確認
2回目	初日授業の前 (2月10日)	Eメール	コースの時間及び場所の案内 (地図付き)
3回目	コース終了後 (3月12日～3月16日)	Eメールと電話	振り返りビデオの配布

反省として、以下の二点があげられる。

1回目の連絡にあたっては、「文系総合館の場所がわからない」、「文系総合館の英語の名前が知りたい」などの問い合わせがたくさんあった。そこで、2回目の連絡にて、文系総合館の場所を示す名古屋大学東山キャンパスの地図（日本語版（資料2）と英語版（資料3））を添付して送信することにした。2回目のメールでは、文面も日本語と英語両方で連絡したため、評価がよかった。

3回目の連絡は、コース終了後学習者に授業の振り返りビデオを渡すため、個別の連絡であった。配布時間は、実習コースの2月29日(水)において、通知書を配布した。その際、学習者の都合を考慮し、二つの時間帯から選択できるようにした。しかし、コース終了後、ビデオの受け取りを忘れた学習者が多く、結局個々の学習者の都合に合わせて、各自に配ることとなった。コース終了前にビデオの作成が完成できれば、コースの最終日に配布するのが一番理想的である。最終日に配布することが困難である場合、一つの時間帯に決めておいた方がより効率よく配ることができると思われる。

(文責：梁)

2.2 事後アンケート

2.2.1 事後アンケート概要

本年度は、以下の2種類の事後アンケートを作成した。

授業についてのアンケート

目的：自分たちの反省を促す、今後への情報とする。

実際に学習者に配布したものは、資料4「授業についてのアンケート」を参照のこと。

日本語学習の記録

目的：学習者の振り返りを促す

実際に学習者に配布したものは、資料5「日本語学習の記録」を参照のこと。

本節では、事後アンケートの計画と作成、および実施について報告する。実際に行った事後アンケートの結果については、第5章を参照されたい。

2.2.2 事後アンケートの計画・作成

第4回ミーティング (2/10)	2006年(夏季)の事後アンケート報告を実習生に配布。 次のミーティングまでに見てもらおうようアナウンス。
第5回ミーティング (2/19)	事後アンケートの実施日・概要の決定。 ◆実施日：2/29(水)2限 ◆概要：以下の(1)、(2)を目的として、2種類のアンケートを作成する。なお、(2)は、実施の翌日に返却する。 (1)自分たちの反省を促すものとして/今後への情報として ⇒全ての項目に自由記述欄を設ける。 (2)学習者の振り返りを促すものとして ※質問項目： (1)自分たちの反省を促すものとして/今後への情報として ・コース内容に満足できたか ・もっと勉強したかったことがあるか ・授業時間(90分間、開始・終了時刻)はどうか ・コース期間 ・クラスレベル ・クラス人数 ・教師 ・たくさん話すことができるようになったか ・期待していたことと違ったことがあるか ・来年も参加したいか、など

	<p>(2)学習者の振り返りを促すものとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すことに自信がついたか ・can-do リストの内容ができるようになったか
<p>メールリスト (2/24 ミーティング前)</p>	<p>・2月19日のミーティングで話し合われた内容をもとに事後アンケートを作成し、メールリストで送信した。</p>
<p>第7回ミーティング (2/24)</p>	<p>・メールリストで送信した「授業についてのアンケート」と「日本語学習の記録」について、以下のよう に修正するよう決定した。</p> <p>(1) 授業についてのアンケートについて</p> <p>○次回までの修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の修正 (易しく) ・段階 7 → 5 ・日本語・英語、どちらで答えてもよいということを明記 ・クラスサイズに関する項目の追加 ・英訳をつける <p>(2) 日本語学習の記録について</p> <p>○次回までの修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英訳の修正 ・発表についての項目を作成 ・日程欄削除
<p>メールリスト (2/26)</p>	<p>・2月24日のミーティングで話し合われた内容をもとに事後アンケートを修正し、メールリストで送信した。</p>
<p>メールリスト (2/28)</p>	<p>・2月26日に送信した内容をもとに再度修正を加えたものを、メールリストで送信した。</p> <p>○修正点</p> <p>アンケートの最後に「みなさんからの意見・感想は、来年の授業に活かしていきたいと思います。」という一文と、その英訳 ("Your feedback and ideas will help us to improve our Japanese classes for the next year.") を付け加えた。</p>

2.2.3 事後アンケートの実施

第5回ミーティング（2月19日）で決定した通り、2月29日（水）2限に、この日の授業担当者が中心になってアンケートを実施した。その結果、「授業についてのアンケート」「日本語学習の記録」とともに、4名の学習者から回収することができた。そのうち、「日本語学習の記録」については、3月1日（木）に学習者に返却した。

2.2.4 良かった点・反省点

良かった点としては、「授業についてのアンケート」において、全ての項目に自由記述欄を設けることによって、より今後につながる意見をもらうことができたことが挙げられる。

その一方で、来年度に向けていくつか反省すべき点もあるように思われる。まず最も大きな反省点として挙げられるのは、今回、「授業についてのアンケート」「日本語学習の記録」とともに、4名の学習者からしか回収することができなかったことである。より多くの学習者から回収するために、28日、29日両日でアンケートを実施したり、DVD受け渡しの際にアンケートを実習生に渡してもらったりすることも検討すると良かった。（ただし、DVDの受け渡し自体を忘れてしまう学習者もいたため、DVD受け渡しの際のみの回収を前提としてしまうと、さらに回収率が低くなることも考えられる。）このほか、「事後アンケート」では、「1」がマイナスの評価で、数字が大きくなるにつれてプラスの評価になる、という方式をとったが、「日本語学習の記録」では、数字が大きくなるにつれてマイナスの評価になるという方式にしてしまったことや、日本語の質問と英訳の意味が少し異なるように思えるところがあった（「3. 授業の中で、悪かったと思うところがありますか？」→「In what areas can we make improvements?」など）ことなども、反省点として挙げられる。

（文責：川口）

2.3 書記

本年度は、新たな係として「書記」を設けた。この係は、2名体制で行った。主な業務は、(1)実習生会議における議事録の作成、(2)実習生会議の司会・進行である。各仕事については、係担当者が交代で行った。

後半になるにつれて、実習生の疲労度が増し、話し合いの時間が長引いた。会議の内容・意識の共有のためにも、実習生会議の議事録の作り方・進め方を前もって詰めておけばよかったということが反省点として挙げられる。やるべきことの洗い出しとその役割分担、たたき台となるものの準備、どの議題を取り扱うべきかを事前に決めて臨むことができれば、時間という点で効率的ではあったかもしれない。

2.3.1 実習生会議

各回の議事録については、資料6「議事録」を参照のこと。

	日時		場所	参加者
第1回	1/23 月	13:00-14:30	文総館 623	鷺見先生、TA、高橋、飯田り、梶原、川口、久野、筒井、梁
第2回	1/23 月	18:00-20:00	文総館 624	高橋、飯田り、梶原、川口、久野、筒井、梁
第3回	2/5 日	14:00-17:00	大院生 室	高橋、飯田り、梶原、川口、久野、筒井、梁、飯田か
第4回	2/10 金	14:00-16:15		高橋、飯田り、梶原、川口、久野、筒井、梁
第5回	2/18 日	14:00-		川口、飯田り、飯田か、久野、梶原、高橋
第6回	2/22 水	16:30-		高橋、飯田り、梶原、川口、久野、筒井、梁
第7回	2/24 金	14:00-17:00		高橋、飯田り、梶原、川口、梁、筒井、飯田か、久野
第8回	2/27 月	14:30-		高橋、飯田り、川口、梁、筒井
第9回	2/28 水	15:20 -		飯田り、川口、梁、筒井、梶原、飯田か、久野

(文責：高橋、梶原)

2.4 ウェブ

実習前及び実習期間中は他の係に比べて手が空いていたため、実習に関する仕事で、事前に想定されず係が決まっていなかったものを担当した。具体的には、物品購入や教室の事前準備などである。

実習報告書の作成と並行して、2012年日本語教育実習用のWebページ(htmlファイル)を作成した。その後、完成した報告書をそれぞれの担当者から受け取り、書式等を整えpdfファイルを作成し、Webページにリンクさせた。完成したWebページは、杉村泰先生に依頼しネットワーク上にアップロードしていただいた。

(文責：久野)

2.5 オリエンテーション

2.5.1 事前準備の流れ

オリエンテーションは、授業の開始日の一限（90分）を用いて行われることになった。その構成をチラシ係とオリエンテーション当日の司会者とで打ち合わせをして構成を考えた。まずチラシ係が構成案を提出し、司会者が不足点などの確認をして決定した。そして、実習生の集まりでオリエンテーションの内容と流れを簡単ではあったが報告し、検討をした。その後、当日の司会者が「オリエンテーションの流れ」を当日出席する実習生全員に事前連絡をして、当日を迎えた。その流れは下記の通りである。

日付	準備内容	担当者
2月6日（月）	オリエンテーションのタイムテーブルの案を当日の司会者に提出	筒井
2月7日（火）～ 2月9日（木）	オリエンテーションのタイムテーブル案について司会者とメールで連絡	筒井・飯田 か
2月10日（金）	実習生のミーティングでオリエンテーションの内容を報告・検討	筒井・飯田 か
2月11日（土）	実習生全員にメールでオリエンテーションの流れを連絡	飯田か

2.5.2 オリエンテーションの概要

日時：2012年2月13日（月）1限 9:00～10:30（実習開始日の一限目）

場所：文系総合館 609

司会：飯田香織

参加人数：35名（学習者21名、実習生10名、TA4名、鷺見先生）

参加した学習者の国籍：中国、トルコ、フランス、ベトナム、インドネシア、インド

【オリエンテーション タイムテーブル】	
9:00～	調整時間（学生やTAの集合調整、会場の設定など）
9:10～	TAと実習生 1人約1分ずつ自己紹介（TA&実習生12名）
9:25～	資料配布（電話のアンケート、スケジュールなどの配布）＋ スケジュール説明
9:50～	誕生日当てゲーム（アイスブレイキング）
10:10～	鷺見先生から（15～20分ほど）

2.5.3 アイスブレイキング

アイスブレイキングで行ったゲームは、『誕生日当てゲーム』であった。

『誕生日当てゲーム』は、参加者が言葉を使わずにジェスチャーを使って自分の誕生日をほかの参加者に伝え、誕生日ごとに順になって並ぶというゲームである。言葉を使わずに『誕生日当てゲーム』であることを、まずひとりのファシリテーターが「バースデーケーキの絵」や「カレンダーの絵」などをホワイトボード等を書いて、示すところがポイントである。この時点で、何をファシリテーターが示しているのか分かる人と分からない人がいるが、わからない人がいても、何名かは理解できていると判断したら、そのまま続ける。そして、そのゲーム内容が分かった人がいたら、その人にその人の誕生日がいつかを全体に向けて示してもらおう。その連鎖反応で、お互い隣同士などでジェスチャーで誕生日を伝え合い、誕生日ごとに並び終わったら（輪になったら）、ファシリテーターが「何を示しているかわかりましたか？」とはじめに描いた絵について聞いて、「私は何月何日生まれです」と答えを言う。そして、ひとりずつ自分の誕生日を言っていき、全員正しく誕生日ごとに並べていたら、拍手をする。もし、誰かが間違えていても、非難などはしない。話したことがない人々の顔を覚えることや、誕生日を知ることによって親近感がわくゲームである。

2.5.4 まとめ

仕事の反省点として、下記の三点があげられる。

まず、オリエンテーションで行うゲームはアイスブレイキングとして行うはずだったが、ゲーム内容ややり方についての指示が具体的でなかったため、学生にあまり伝わらなかったのがアイスブレイキングにならなかった。

それから、留学生に対して行う自己紹介は、実習生の名前を覚えてもらうための何か工夫をしたほうが良かった（時間も十分余っていたため）。

オリエンテーションは留学生の「この日本語クラスに参加したい」という気持ちを掴むための大事な一大イベントである。そのため、「この日本語クラスに参加すれば、日本語が上達するだろう」とか「この日本語クラスに参加すれば、もっと日本語が好きになるだろう」という気持ちになるようなオリエンテーションの企画・運営が大事であった。

オリエンテーション当日の様子は、学習者数が想定していたよりも多く、クラス内になんとか収まるという状態であった。そのため、オリエンテーションの「ゲーム」で学習者同士がひとつの輪になることが難しく、お互いの顔が見えないという問題も起こった。日本語での説明がどれくらい学習者に伝わっているか把握しにくいのが、それよりも「このクラスはこれからどのような方向に進んでいくのか、どんなカリキュラムなのか」といった点や「どれくらい日本語が話せるようになるのか」という具体的な内容が知りたい学習者も多くいたように感じた。そのため、少し難しくても知的好奇心をかきたてるようなオリエンテーションとそのクラス説明が必要であったことが考えられる。

2.6 パーティー

2.6.1 ティー・パーティーの概要

日程：2012年3月1日（木）3限 13:00～14:30 （実習最終日の最終コマ）

場所：文系総合館 609

司会：飯田理恵子

ビデオレター上映担当：梶原、久野、飯田か

参加人数：16名（学習者6名、実習生7名、TA2名、鷺見先生）

参加した学習者の国籍：中国、トルコ、フランス、ベトナム、インドネシア

<プログラム>

1. イラスト当てゲーム
2. 単語当てゲーム
3. ビデオレター上映
4. TAに色紙・DVD（ビデオレター）贈呈
5. 皆勤賞プレゼント
6. 実習生・TA・学習者から一言
7. 鷺見先生からのお言葉

実習最終日に、お菓子と飲み物を用意し、ティー・パーティーを行った。ティー・パーティーでは、ゲームをしたり、サプライズ企画を行ったりして盛り上がった。また、ゲームの後、お菓子を食べたり自由に話したりする時間を作った。上記プログラムの詳細については後ほど報告する。

当日のお菓子と飲み物は、事前に実習生8名から500円ずつ集金し、代表者がパーティー前日にコンビニで購入した。また、学習者には特に何も頼んでいなかったが、フランス人学習者が、手作りのカヌレというお菓子を持参してくれた。

購入品

飲み物、お菓子、紙コップ、紙皿、ジップ袋—合計 3,570円

→余った430円は、大院生室に置くおやつ代として後日使用した。

2.6.2 イラスト当てゲーム、単語当てゲーム

今回パーティーで行った2つのゲームのルールを紹介する。

<イラスト当てゲーム>

最初に、くじびきで1チーム5人の3つのチームに分けた。くじ引きでは、学習者と教師が万遍無く分かれるように配慮した。まず、チームの誰かがお題カードを引き、ホワイトボードにその絵を描く。例えば、お題が「猫」であれば、猫の絵を描けばよい。チームの残りのメンバーは、その絵を見て、お題が何か当てる。正解したら絵を描く人は他のメンバーに交代となる。このゲームは、各チーム5分間で何問正解できるかを競った。パスは何回使ってもいいが、正解しないと絵を描く人は交代できないことにした。

<単語当てゲーム>

このゲームは、学習者が問題出題者となった。問題出題者は前に出て、お題カードを引く。残り的人たちは出題者にいろいろな質問をして、出題者が引いたお題が何なのか当てる。例えば、質問する人は「それは食べ物ですか？」などと質問をし、出題者はそれに答える。なかなか正解が出ない場合は、出題者からヒントが出る。お題カードには難易度の高いものも含まれていたため、出題者はパスを何回使ってもいいことにした。

2.6.3 ビデオレター上映、TAに色紙・DVD（ビデオレター）贈呈

「ビデオレター上映」と「TAに色紙・DVD（ビデオレター）贈呈」はTAへのサブライズ企画として行った。ビデオレターと色紙は、TAがいない事前の授業で学習者に協力してもらい、作成した。ビデオレター収録後、梶原がビデオを編集し、当日はBGMとスライドショー付きの映像をプロジェクターで上映した。また、ビデオレターの映像は、TAの人数分DVD-Rに焼き、色紙と一緒にTAにプレゼントした。

2.6.4 皆勤賞プレゼント

このプログラムは計画段階では予定していなかったが、パーティー直前に飯田香織が提案し、実現した。授業を1回も休まなかった中国人学習者1名に、皆勤賞プレゼントとしてマカロンを渡した。

2.6.5 事前の準備の流れ

日付	準備内容	担当者
2/24（金）	ティー・パーティーで何をやるか、話し合っ て決める。	実習生全員
2/25（土）	プログラムを決める。	飯田り
2/27（月）頃	BGM 準備※1	梁
2/28（火）	色紙レイアウト	飯田り
2/29（水）	ビデオレター作成	学習者※2、高橋、 梁

〃	ビデオレターの映像を DVD-R に焼く。	梶原
〃	ビデオレター編集※3	梶原
〃	色紙にコメントを書き入れる。	学習者※2、実習生
〃	色紙仕上げ	梶原
〃	ゲームの準備（お題カード作成）	飯田り
〃	買い出し	飯田り、飯田か、梶原
3/1（木）の 昼休み	皆勤賞のプレゼント（マカロン）購入※3	飯田か
〃	チーム分けのくじ引き作成※4	飯田り
〃	編集したビデオレターの再生確認※3	梶原、久野

※1 ジブリの音楽を BGM として用意し、当日はパソコンで再生した。

※2 学習者の作業は全て 2/29（水）の授業内で行った。

※3 皆勤賞プレゼント購入とビデオレター編集は、計画段階では予定していなかったが、それぞれ担当者が率先して行った。また、編集したビデオレターの再生確認も、担当者が自発的に行った。

※4 当日にならないと参加者が確定しなかったため、パーティー直前に作成した。

2.6.6 まとめ

全体的に、楽しい雰囲気で行うことができた。ビデオレター上映は、お世話になった TA へ感謝の気持ちを伝える目的で行ったのだが、学習者の成長も感じることができ、実習プログラムの良い締めくくりとなった。

直前の準備作業が多かったが、他の実習生の協力のおかげで成し遂げることができた。特に、今回は他の実習生がパーティー成功に向けて率先して仕事を行ってくれたため、パーティー係担当としては大変助かった。皆勤賞プレゼントとビデオレターの編集は、当初予定していなかったが、取り入れて正解であった。

今回は 90 分間のティー・パーティーであったが、あっという間に時間が過ぎ、参加者一同まだまだ話し足りない様子であった。従って、パーティー開始時間を早めて、昼食を皆で食べるのも良かったかもしれない。ゆっくり昼食を食べた後にゲーム等を始めれば、もっと話す時間が増えたであろう。また、学習者と実習生が食べ物を持ち寄って来るというのも、盛り上がったかもしれない。今後、検討してみたい。

（文責：飯田り）

第3章 参加者募集と事前準備

3.1 参加者募集

本年度は、事前に募集対象のクラスを決めた。そして、各対象クラスに実習生（各一人）がチラシと申し込み用紙を持参し、アナウンスに伺った。本年度の日本語実習コースは初中級レベルの学習者を対象者としているため、上級学習者の日本語クラスでの募集は行わなかった。

訪問日時の調整は、全学標準初級・集中中級コース(担当：李澤熊先生)は高橋が、初級日本語特別コース(担当：鹿島先生)は梁が、G30b クラス(担当：徳弘先生)は梶原が連絡をとって行った。

3.1.1 参加者募集係の仕事

本年度の参加者募集係が行った仕事は以下の通りである。

- ①チラシ作成
- ②申し込み用紙の作成
- ③用紙（①と②）の原本を実習生全員にメールで添付送信
- ④チラシと申し込み用紙の印刷と院生室への配布

3.1.2 参加者募集の流れ

日付(2012年)	内容	チラシ・申し込み用紙の配布先	担当実習生
1月23日(月)	記載内容の決定		全員
1月24日(火)	チラシ・申し込み用紙の作成		筒井
1月25日(水)	用紙の印刷・アナウンス	SJ200・IJ112	筒井・飯田り
1月27日(金)	アナウンス	SJ102・G30	高橋・梶原
1月30日(月)	アナウンス	IJ111a・IJ111b・SJ200	久野・川口・梁

3.1.3 チラシ作成

募集対象のクラスを第一回目（2012/01/23）のミーティングで決定した。

募集対象のクラスを初級終了程度として募集をかけることにした。G30のaクラスにとってはレベルが高いため今回は募集をしなかった。また、全学集中初中級にとってはレベルが簡単ではあるが、復習をしたい学習者がいると見込んでアナウンスをした。初級日本語特別と全学標準初級は今回の募集対象クラスのレベルであると判断した。

【募集対象者の日本語クラス】

- ①初級日本語特別（11a、11b）
- ②G30bクラス
- ③全学標準初級（SJ102、SJ200）
- ④全学集中初中級（IJ111、IJ112）

上記のクラスにチラシを配布するため、チラシを募集対象のクラス訪問日（1/25）までに作成した。記載内容は、これまでの実習報告書のチラシの記載内容を参照しながら、実習生全員で確認し合った。記載内容は、下記の通りである。

【記載内容】

- ・期間
- ・時間
- ・場所
- ・対象者
- ・参加すると何ができるようになるのか。
- ・連絡先
- ・申し込み方法
- ・コース概要
- ・目標
- ・参加者へ一言

実際に学習者に配布した実習のチラシについては、資料7「実習のチラシ」を参照のこと。

3.1.4 申し込み用紙の作成

参加者募集のアナウンス時に申し込みがあることを想定して、申し込み用紙を別紙で用意した。募集アナウンス時以降にも応募ができるように、学習者との連絡窓口を一つ設けて、メールアドレスと申し込み方法をチラシへ記載した。

申し込み用紙の記載内容は下記の通りである。

【記載内容】

- ・氏名
- ・国籍
- ・所属コース名：(○をつけてもらう)
- ・連絡先：(メールアドレス)

実際に学習者に配布した申し込み用紙については、資料8「申し込み用紙」を参照のこと。

3.1.5 まとめ

参加者募集係の仕事は、主にチラシと申し込み用紙の作成であった。これまでの実習で使われたチラシ等の記載内容を参考にしながら作成したので、すぐに作成することができた。しかし、いくつか反省点があった。反省点は以下の通りである。

1) 参加者募集

日時調整を行ってくれた実習生がいたため、全学標準初級、全学集中初中級への日時調整は問題なく行えた。しかし、各訪問先の授業の担当教員との連絡が早くできた実習生とそうでない実習生がいたので、もっと早めに訪問先の担当教員と連絡がとれるように事前に連絡先も確認しておくとうよかった。

今回は、予想以上に応募してきた学習者が多く、学習者のレベルも統一されていたため、募集の対象クラスの設定に大きな問題がなかったと思われる。一方、募集開始時は、学期の終わり頃であったため、コースに参加したくても、すでに帰国予定を立ててしまっていた学習者もいた。従って、募集をより早めに行うべきであった。

2) チラシ

授業の開催場所は振り仮名を付けて記載しておいたのだが、参加者にとっては、文系総合館は日頃使い慣れた場所ではなかったため、英語版をつけるともっとよかった。もしくは、説明を加えるか、初日は一緒にその場所まで案内するなどの支援が必要であった。

3) 申し込み

今回は、書く負担を減らすために「コース名」の欄は○をつけるようにした。しかし、学生自身が自分の在籍する日本語のコース名を分かっていなかったため、学習者が履修している授業の曜日、時間、担当教員名を聞いて実習生が書き込めばよかった。メールでの申し込みについても、履修している授業の情報を同様に書いてもらうようにすればよかったであろう。また、今回は申し込み時点で、学習者の専門分野までは問わなかったが、実習生がより具体的に授業計画を考えるために、事前に学習者の専門分野を把握していても良かったかもしれない。いずれにせよ、学習者について早めに情報を集めることが望ましいであろう。

4) アナウンス

本年度は、クラス説明会などはせず、クラス訪問であった。担当実習生が各訪問先でアナウンスした。アナウンス時には、予想外の質問もあったようだ。例えば「宿題の有無」、「無料なのか」、「欠席してもよいのか」などである。事前にチラシの内容をアナウンスすることを確認していたが、もっと学生の立場にたってどのようなことをアナウンスすべきなのか検討する必要があった。

(文責：筒井)

3.2 事前準備

今回の実習では文系総合館の 609 教室を使用した。机と椅子の数が想定される学習者の数よりも少なかったため、急きょ当日の朝、実習生が 623 教室から机と椅子を運び入れた。また、留学生にわかりやすいように、609 教室の前に、日本語の授業の教室がここであるということを掲示して示した。机と椅子以外に、オリエンテーション前に教室内に準備したものは無かった。

机の移動を当日ではなく、前もってできるとよかったというのが反省点である。

(文責：久野)

3.2.1 学習者情報

(1) 応募者情報(18名)

本年度日本語教育実習には、18人の学習者からの応募があった。18人の内には、中国国籍応募者7名、ウズベキスタン国籍応募者2名、韓国国籍応募者1名、ミャンマー国籍応募者1名、イラン国籍応募者1名、トルコ国籍応募者1名、インドネシア国籍応募者1名、フランス国籍応募者1名、インド国籍応募者1名、ベトナム国籍応募者1名、モンゴル国籍応募者1名が含まれている。それから、応募時在籍の日本語クラスについては、集中コース IJ111a 在籍者6名、集中コース IJ111b 在籍者4名、G30b クラス在籍者2名、SJ200 在籍者1名、SJ102 在籍者1名、SJ200 終了者1名、全学日本語：標準コース：初級・初中級在籍者1名、不明1名、標準日本語初中級終了者1名となっている。

(2) 授業参加者情報

初日の授業に出席したのは、18名中10名であった。第一週の授業に出席したのは、11名であった。その内の一人は、募集時には応募していなかったが、2月16日の3限の授業を聞きにきた学習者である。第二週の授業に出席したのは、7名であった。なお、上記の人数には、コースを途中で抜けた学生も含まれる。途中でコース参加を

やめた学習者にその理由について聞くと、「ビジネス日本語を学びたかった。」、「授業の内容が難しく、理解できなかった」、「授業の内容は簡単すぎる」など様々であった。3週目の授業に出席したのは、7名であった。最後、本年度日本語教育実習のDVDを配布したのも、この7名であった。2012年日本語教育実習コースの主要参加者7名の情報は、次の表にまとめた。

2012年日本語教育実習コースの主要参加者情報の一覧表

名前	国籍	所属と専門	身分	所属する日本語クラス	既習歴	進路
Rさん	中国	法学研究科・民法	大学院生 NUPACE	集中コース： IJ111a	5ヶ月	帰国
Tさん	中国	法学研究科・民事訴訟法	特別研究員	集中コース： IJ111a	9ヶ月	帰国
Jさん	中国	環境研究科	大学院生	SJ200	8ヶ月	在学
Aさん	トルコ	工学部・電気電子	学部生 NUPACE	集中コース： IJ111a	5ヶ月	帰国
Eさん	インドネシア	工学部・IT	学部生 NUPACE	集中コース： IJ111a	5ヶ月	帰国
Lさん	フランス	数理研究科・数学	特別研究員	SJ200を修了	不明	在学
Qさん	ベトナム	GSID・経済	大学院生	SJ102	4ヶ月	在学

(文責：梁)

3.2.2 物品購入

物品購入については特に係を決めていなかったため、実習期間中に仕事の発生しないウェブ係が会計係を兼任した。

物品購入は全部で2回行われた。1回目は、コース開始2日前に授業準備に使用したい物品購入を伊藤先生に依頼し、13日に生協にて必要なものを購入した。必要なものは実習生が先生と一緒に生協に行って選んだ。実習が進むにつれ足りないものが出たので、24日に2回目の物品購入を行った。この時も実習生が実際に生協に行って選んだ。来年はより余裕をもって行動することが望ましい。

購入したものは、コンピュータールームの棚に置いてある青い袋の中に保管されている。購入品目及び会計報告書は以下の通りである。

2012年 日本語教育実習 購入品目一覧

購入日	購入品名	数量	単価	金額	備考
2月13日	COOP フラットファイル 5冊パック	3	325	975	
	画用紙 四つ切	20	32	640	
	紙文 色上質紙 50枚入り A4 水色	1	189	189	
	紙文 色上質紙 50枚入り A4 桃色	1	189	189	
	紙文 色上質紙 50枚入り A4 黄緑	1	189	189	
	紙文 色上質紙 50枚入り A4 黄色	1	189	189	
	マルアイ 色紙	5	84	420	
	ニチバン 両面テープ ナイ スタック	1	420	420	
	三菱鉛筆 ピースマーカー 8色セット	2	806	1612	細いカラー サインペン
	ゼブラ マーカー ハイマッ キー黒	5	126	630	マーカー黒
	ゼブラ ハイマッキー	2	126	252	マーカー青
ゼブラ マッキー 太/細	2	126	252	マーカー赤	
2月24日	マクセル DW120WP10S	2	2280	4560	DVD-RW
	合計	46	5081	10517	

(文責：久野)

第4章 クラス概要

4.1 全体スケジュール

4.1.1 事前に設定したスケジュールについて

今回の実習では、設定された学習目標に沿って、チームごとにそれぞれの担当日の時間配分を決めた¹。初めの2週は各チーム実習生2名とティーチング・アシスタント1名の3名で²、最後の1週は各チーム実習生2名のみで授業を行った。実習生のみで授業を行った日は、時間配分も実習生のみで設定した。

以下に、事前に各チームで設定したそれぞれの日の時間配分と学習目標、特別活動を行った日についてはその発表テーマを記す。なお、実際の授業がどのような時間配分で行われたかについては、本章第2節以降で詳述する。

<全体スケジュール>

	時間ごとの担当者			学習目標	発表テーマ
	1限	2限	3限		
2/13 (月)	(オリエンテーション)	前30分:飯田か 後60分:入江	前30分:久野 後60分:入江	自己紹介・友達の紹介ができる	
2/14 (火)	筒井	川口	石黒	誘ったり、誘われたときに断ったりできる	
2/15 (水)	前45分:梶原 後45分:國澤	前30分:國澤 後60分:飯田り	國澤	アドバイスをしたり、アドバイスを求めたりすることができる	

¹ チームは実習指導教員である鷲見先生に編成していただき、各日の学習目標は実習生全体で設定した。

² ただし、第2週においても、特別活動を行った2月23日(木)3時限目及び24日(金)3時限目は実習生のみで授業を行った。

2/16 (木)	前 45 分:筒井 後 45 分:川口	前 45 分:筒井 後 45 分:川口	石黒	道を尋ねることができる	
2/17 (金)	田中	高橋	梁	図書館や旅行会社などで、手続きができる	
2/20 (月)	入江	前 45 分:入江 後 45 分:飯田か	前 15 分:入江 中 60 分:久野 後 15 分:入江	病院で自分の症状を説明して、医師の指示を理解することができる	
2/21 (火)	國澤	前 45 分:梶原 後 45 分:國澤	前 45 分:國澤 後 45 分:飯田り	不満を述べたり謝ったりすることができる	
2/22 (水)	前 30 分:田中 後 60 分:梁	高橋	田中	何かを依頼したり、お礼を述べたりすることができる	
2/23 (木)	前 45 分:飯田り 後 45 分:梶原	國澤	梶原、飯田	許可を求めることができる	家族について (3 限)
2/24 (金)	前 60 分:久野 後 30 分:飯田か	前 45 分:飯田か 後 45 分:入江	久野、飯田か	二つ以上のものを比較することができる	私のお気に入り (3 限)
2/27 (月)	飯田か	久野	前 30 分:久野 後 60 分:飯田か		10 年後の自分 (1 限)

2/28 (火)	前 45 分:川口 後 45 分:筒井	川口	筒井	電話でのやり取りができる	好きな日本語・嫌いな日本語(1限)
2/29 (水)	高橋	梁	高橋、梁	ビデオレターを用いてお礼を述べることができる	日本に来て驚いたこと(1限)
3/1 (木)	川口	筒井	(パーティー)	地震の際に適切に避難することができる	地震(1~2限)

※網掛け部分は、実習生のみ (TA なし) で授業を行った部分である。

※複数の名前が書かれているにもかかわらず時間配分が書かれていない欄は、複数名が共同で授業を行った部分である。

4.1.2 授業のビデオ撮影について

実習生が行った授業の様子は、ビデオカメラで撮影し記録した。実習で撮影したビデオは実習生自身で変換・保存の作業を行った。今回の実習では、動画形式の変換と DVD に焼くという作業に、思った以上に実習生の間で混乱が生じた。初めに一度、皆で手順を確認し合う時間を設ければよかったかもしれない。

ビデオカメラの取り扱いについては、資料 9「ビデオカメラとその映像データの取り扱いについて」を参照のこと。

(文責：川口)

4.2 通常クラス

以下、2/13 (月) から 2/29 (水)、合計 13 日間の通常クラスの授業報告である。

1日目 2月13日(月)	担当：飯田か、久野、入江(TA)
学習目標 ・自己紹介・友達の紹介ができる。	新出語彙 【名詞】

学習項目 ・N1はN2です。 ・(何・どんな・どこ等)～ですか。 ・～から来ました。	自己紹介、どこ、どちら、なに、名前、出身、所属、学部、研究科、趣味、スポーツ、野球、テニス、サッカー、水泳、バドミントン、サイクリング、バスケットボール、卓球、読書、映画、音楽、料理、旅行、専門、法学、心理学、工学、社会学、化学、教育学、言語学、文学、医学、～(年/か月)前、今年、去年、おとし、どのくらい 【動詞】 来る、呼ぶ 【その他】 はじめまして、よろしくお願いします
--	--

～分	テーマ	活動
【1限】 90分	オリエンテーション	オリエンテーション
【2限】 30分 (飯田か)	一人語りの自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介のモデルの提示 出身・趣味の文型導入 「私は～です。」 「～と呼んでください。」 「～から来ました。」 / 「出身は～です。」 「趣味は～です。」「よろしくお願いします。」
60分 (入江)	一人語りの自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> 【ペアワーク】⇒日本人も交えて、ペアで練習 所属・専門の文型導入 「所属は～です。」「専門は～です。」 【ペアワーク】⇒2つのグループに分かれて、その中でペアを交代して練習
	質問をする／質問に答える	<ul style="list-style-type: none"> 「いつ日本に来ましたか。」「日本に来てどれぐらいですか。」の文型導入 【ペアワーク】⇒学習者から日本人に質問
【3限】 30分 (久野)	質問をする／質問に答える	<ul style="list-style-type: none"> 2限の復習 名前、趣味、出身、所属、専門、いつ日本に来たか、日本に来てどれぐらいかの聞き方の確認 「(名前/趣味/専門)は何ですか。」 「(出身/所属)はどちらですか。」 「いつ日本に来ましたか。 / ～に日本に来ました。」 「日本に来てどのぐらいですか。 / 日本に来て～です。」 学習者に教師が質問して答え方の確認

		<ul style="list-style-type: none"> ・【ペアワーク】⇒ペアになって質問し、ワークシートに聞いたことを書く(ペアを交替し、4人分の情報を集める)
60分 (入江)	他者紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さんの□□は△△です」の文型の導入 「〇〇さんの(出身/趣味/所属/専門)は～です。」 ・【発表】⇒前に出て、他者紹介をする ・【グループワーク】⇒学習者のペアに日本人が1人入り、学習者が日本人にもう1人の学習者について紹介する

反省	
<p>メリハリに欠けていた。何を伝えたいかをもっとはじめに具体的に示すべきだと反省した。NはNですだけにとらわれて、場面やどんなときに何を聞くか等を学習者へ問いかける、ということはしなかったなので、導入の部分を改善したいと思った。(飯田)まだペアの作業が終わっていないときに2人目に交替してもらってもいいのかとても迷った。実際、交替してくださいと言ってもまだ途中だと学習者も動きたくないようだった。また、書く作業を取り入れたことで繰り返し自己紹介をすることに少し変化が生じたが、書くことが目的になってしまったので、完全な文で質問していない人もいた。計画よりだいぶ日本人が少なかったなので、授業計画を変更しようか迷った。時間配分も、時間が余ってしまったので困り、次回への反省点だと思った。(久野)</p>	

2日目 2月14日(火)		担当 : 筒井、川口、石黒(TA)
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・誘ったり誘いを断ったりすることができる。 	新出語彙
学習項目	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に～ませんか。 ・一緒に～に行きませんか。 ・一緒にNをVに行きませんか。 ・今日、～ませんか。／今日は、ちょっと…。 ・Nは、ちょっと…。～んです。 ・～ない?／～よう。 ・ごめん。～は、ちょっと…。～んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【名詞】 かぜ、病気、お弁当、豚・鶏・牛肉、すし、すきやき、天ぷら、さしみ、スキー、ダンス、カラオケ、ギター、昼ご飯、靴、服、お酒、コーヒー、公園、プール、海 【イ・ナ形容詞】 ねむい、好き、きれい、忙しい、うるさい、こわい、気持ち悪い、はずかしい、へただ 【動詞】 食べる、撮る、散歩する、仕事する、泳ぐ、歌う、話す、掃除する、読む、飲む、見る、聞く、書く、買う、行く、休む、来る、帰る、買い物する、結婚する、招待する、パーティーする、入る、走る、遊ぶ、申し込む 【その他】 今週、来週、再来週、今日、明日、明後日、月～日曜日、1月～12月、今晚、今月、来月

～分	テーマ	活動
【1限】 40分 (筒井)	誘う ー承諾する	<ul style="list-style-type: none"> ・導入文型を用いて学習者を誘う。 《文型》 ・一緒に～ませんか。 ・一緒に～に行きませんか。 ・一緒にNをVに行きませんか。 《語彙》 ・食べる、パーティーなど、イラストを用いて名詞と動詞を取り扱った。 《練習》 ・文型を用いた会話練習
50分 (石黒)	趣味について復習、程度副詞をつけて頻度を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の復習（自己紹介） ・趣味について会話 ・程度副詞を用いて会話
【2限】 90分 (川口)	誘いを断る	<ul style="list-style-type: none"> ・1コマ目の復習 《文型》 ・今日、～ませんか。／今日は、ちょっと…。 ・Nは、ちょっと…。～んです。 ・（時間）は、ちょっと…。～んです。 《語彙》 ・曜日、月などの時を表す用語を取り扱った。 ・形容詞を取り扱った。 《練習》 ・タスク：スケジュール表作り
【3限】 90分 (石黒)	意向形の活用を用いる ビンゴゲーム 異文化理解をする	<ul style="list-style-type: none"> ・1～2限の補足説明 ・～ない？／～よう。 ・ごめん。～は、ちょっと…。～んだ。 ・意向形ビンゴゲーム ・バレンタインデーについて話をする。

反省

学習者は、今回の文型は、既に定着していた。しかし、教師側がしっかり学習者の

レベルを把握していなかったために文型中心の授業内容となった。そのため、学習者にとっては少々退屈な部分もあった。また、ある学習者から、「いつからレベルが上がりますか。」という質問を受けた。

授業内容が学習者のレベルにあったものではなかった結果だと思う。これは、終始教師側が予想していたレベルに設定した内容で、内容やレベルに変化がなかったためであると思う。教師側がもっと難易度をつけた練習を用意しておくべきだった。話すタスクをもっと増やすと良かったと思う。

学習目標が誘いと断りであったので、学習者同士が積極的に会話を広げていたのはよかったと思う。

3日目 2月15日(水)	担当：梶原、飯田り、國澤(TA)
学習目標 ・アドバイスを求めたり、アドバイスをしたりすることができる。	新出語彙 【名詞】 野菜、人混み、悩み、朝、ダイエット、隣、課題、おすすめ、食べ物、飲み物、お菓子、かつ丼、すし屋、客、注文、まぐろ、いか、えび、アボカド、カルビ、鯛、こはだ、おいしさ、歯ごたえ、人気、価格、美容院、カフェ、お店、パン屋、居酒屋、病院、歯医者、飲み会、卒業式、結婚、入院、財布、果物、バス、電車、新幹線、飛行機、家、薬、学校、暖房、お風呂 【イ・ナ形容詞】 うるさい、おいしい、いい、あたたかい、のどが痛い、上手だ 【動詞】 風邪をひく、着る、寝る、(マスクを)する、(タバコを)吸う、運動する、起きる、ほしい、(暖房を)つける、さがす、なくす 【その他】 たくさん
学習項目 ・Vたほうがいいですよ。／Vないほうがいいですよ。 ・Vたらどうですか。 ・疑問詞+Vたらいいですか。 ・おすすめのN ・何かAdj.+Nはありませんか。／どこかAdj.+Nを知りませんか。	

～分	テーマ	活動
【1限】 45分 (梶原)	アドバイスをする	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vたほうがいいですよ／Vないほうがいいですよ」導入。 ・た形・ない形の確認。 ・「Vたほうがいいですよ／Vないほうがいいですよ。一ですから。」、プリントでペア練習。

		<ul style="list-style-type: none"> ・タスク：クラスメートのカードに書いてある悩みに、アドバイスをする。
45分 (國澤)	アドバイスをする	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vたらどうですか」導入。 ・アドバイスをするときの談話の流れを確認。 ・談話でアドバイスを求める、もらう。
【2限】 30分 (國澤)	アドバイスを求める	<ul style="list-style-type: none"> ・1限目の復習。 ・「疑問詞+Vたらいいですか」導入。 ・「～んですが、どこで／何をVたらいいですか。」、「Vたらどうですか」／「Vてください」を使ったタスク。
60分 (飯田り)	アドバイスを求める	<ul style="list-style-type: none"> ・「何かAdj.+Nはありませんか」、「どこか「Adj.+Nを知りませんか」導入、口頭練習。 ・「おすすめのN」導入。 ・国(出身地)のおすすめを聞く活動。 ・ロールプレイ：すし屋でおすすめのものをきく。 ・習った文型を使って、クラスメートにきく。 例：「どこかいい美容院を知りませんか。」
【3限】 90分 (國澤)	アドバイスを求めたり、したりする	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2限目の復習・まとめ。 ・談話レベルでの練習。 ・自分の国についてアドバイスする。／他の国についてアドバイスをもらう。

反省

一通り日本語の初級文法を勉強し終わっている学習者のレベルを考えると、もっと多くの文型を導入しても良かったと思われる。いろいろな文型を導入し、場面にふさわしいものを選んで使うという活動があっても良かったかもしれない。また、アドバイスを求めたり、アドバイスをしたりする時の談話の流れをもう少し意識して教案を考えられると良かった。例えば、アドバイスを求めて終わるのではなく、アドバイスをもらった後の応答までカバーしたり、自分がアドバイスできない時に「〇〇さんに聞いたらどうですか。」と付け加えることを教えたりすれば、より良い授業になっていたであろう。

本実習プログラムを受講した学習者は、積極的且つ協力的な姿勢で授業に取り組んでくれたため、自分のことについて話す練習や活動を取り入れると盛り上がった。しかし、予想以上に時間がかかってしまうため、それも考慮して授業を組み立てる必要があることが分かった。

4日目 2月16日(木)	担当：筒井、川口、石黒(TA)
学習目標 ・道を尋ねることができる。	新出語彙 【名詞】 デパート、道路、銀行、スーパー、喫茶店、コンビニ、 学生寮、レストラン、図書館、駅、駐車場、花屋、 公衆トイレ、ベンチ、バス停、学校、本屋、地下鉄、 ポスト、郵便局、交番、信号、交差点、横断歩道 【動詞】 ～を～に曲がる、(階段を) 上る・降りる、～を越える、 渡る 【その他】 右、左、先、手前、～(の) 前、後ろ、向かい、となり、 裏、角、～と～の間、近く、道の右側・左側、向こう、 ずっと、まっすぐ、すぐ、～つ目
学習項目 ・道案内 ・～まで、どうやって行けばいいですか。 ・(どこに) ～があります。 ・Vと～があります。 ・VてVと～があります。	

～分	テーマ	活動
【1限】 68分 (筒井)	文型・語彙の 導入	◆文型 ・～はどこにありますか。 ・N1の～にN2があります。 ・～はどうやって行けばいいですか。 ◆語彙 ・店の名前、方向を表す語彙(前、向かい、裏等)など、 主に名詞を取り扱った。 ◆文型を用いた会話練習
18分 (川口)	文型・語彙の 導入2	◆文型 ・Vと～があります。 ・Vて、Vて、Vと～があります。 ◆語彙 ・道案内の際に用いる語彙(主に動詞)を取り扱った。
【2限】 5分 (川口)	タスク①	◆文系総合館内に貼ってある付箋を探すタスク ・学習者が2グループに分かれ、それぞれ教師の案内を口 頭で聞いて、文系総合館内にあらかじめ貼っておいた付箋 を探してくる。
45分 (筒井)	タスク②	◆インフォメーションギャップを用いるタスク ・学習者それぞれに情報の違う地図を用意し、自分の地図 からわかる場所を説明したり、他の学習者に自分の地図か らは分からない場所を聞いたりして、地図を完成させる。

30分 (川口)	タスク③	◆Google マップを用いるタスク ・Google マップを用い、ある地点からある地点への行き方を説明する。その後、Google ストリートビューを用い、その行き方が正しいかどうかを確認する。
10分 (石黒)	事前練習	◆3限のタスクに向けた事前練習 ・1限の復習を兼ねつつ、実際に外で道をどう尋ねればよいかを確認する。
【3限】 90分 (石黒)	タスク④	◆外でのタスク ・学習者が2グループに分かれ、それぞれのグループに教師が付き添いながら、外で実際に日本人に道を尋ねる。名大内の4か所(北部生協、野依記念館、カフェフォレスト、体育館)を回った。

反省

当初予定していたよりも、文型・語彙の導入の時間が大幅に長くなってしまった。予め、必ず教えなければならない場所・削ってもよい場所の双方を意識したうえで授業に臨み、どこかで時間の修正を行えると良かった。

このほか、今回の授業では、3時限目に行った外でのタスクにおいて道を尋ねることができるようになることを目標としていたが、2限目のタスクをその目標につなげるか、ということが曖昧なまま授業を組み立ててしまった。全体的に、目標に対する意識を教師側がもう少し持つことができると、学習者をより引き付けることができたように思う。

5日目 2月17日(金)	担当 : 梁、高橋、田中(TA)
学習目標 手続きをすることができる。	新出語彙 【名詞】 ロッカー、個人、団体、申請、管理人、時間帯、テニスコート、取り寄せ、費用、不在、市営、登録料、使用料、アポイント 【動詞】 記載する、通知する、申し込みする 【その他】 早速、随時
学習項目 ・Vてください。 ・ご+ます形+ください。 ・～ていただけますか。 ・～たいんですが...	

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (田中)	手続きの種類を確認	<文型> ・Vてください。 ・お+Vます形+ください／ご+漢語+くださ

		<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お+Vます形+ですか。 ・～たいんですが・・・、(どうすればいいですか)。 ・～場合は、どうしたらいいですか。 <p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型導入と練習 ・いろいろな手続きの確認(入国の手続き、アルバイトの登録など)
<p>【2限】 90分 (高橋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・テニスコートの手続きをする。 ・カラオケに行く。 	<p><文型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Vたいんですが、Vてくれませんか? ・可能形 ・S場合(は)、Vできます/できません。 ・Sので、Vてください。 ・Nのご希望はございますか?/Nをお願いします。 <p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型導入と練習 ・モデル会話の提示 ・ディクテーション
<p>【3限】 90分 (梁)</p>	<p>旅行に関する手続きをする。</p>	<p><文型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・～たいんですが、～てくれませんか。 ・～の意味が分からないので、もう一回お願いします/(教え)てくれませんか。 <p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1,2限の文型復習 ・文型導入と練習 ・タスク:旅行カウンターに行き、旅行プランを立てる。 <p>—旅行カウンターでの会話練習</p>

反省

初日の担当授業であり大変緊張したが、TAの方のサポートもあり、時間調整をスムーズに行うことができて良かった。また、5日目のこの日は、本コースの初週最終日でもあったが、学習者の積極的な発言も増え、教師側である我々も気持ちよく一日を終えることができた(他の学習者に比べ、やや心配があったTさんも、初日に比べ格段に発言数が増えていた)。しかし、反省と課題も残った。文型練習の難しさである。なるべく多くのことを教えたいという意識から、類義表現もどんどん導入したが

(教師側からだけでなく、「こういった表現は使えるか」といった学習者からの質問もあり、せっかくだからと欲張って教案にはなかった表現も導入してしまった)、かえって混乱を招く結果となった。これが影響して、自分たちの中で文型練習への苦手意識が生まれ、担当授業 2 日目 (22 (水)) では文型導入・練習とも、TA の田中さんに任せてしまった。

6日目 2月20日(月)	担当 : 飯田か、久野、入江(TA)
学習目標 ・病院で自分の症状を説明して、 医者の指示を理解することができる。	新出語彙 【名詞】 頭、目、鼻、耳、口、歯、のど、首、肩、胸、腕、 肘、手、手首、指、背中、腰、お尻、足、膝、 足首、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、耳鳴り、 めまい、内科、外科、歯科、耳鼻科、眼科、 皮膚科、整形外科、診察室、待合室、問診票、 診察券、保険証、領収証、処方箋、錠剤、 カプセル、粉薬、飲み薬、湿布、塗り薬、目薬、 食前、食後、食間、寝る前、～錠、～回 【イ・ナ形容詞】 ～が痛い、～がかゆい 【動詞】 ～がする (例：鼻づまりがする)、熱がある、 ～が出る、うつ伏せになる、仰向けになる、 口をあける、服を上げる、～を向く、～を見る、 手をあげる、息を吸う、息を吐く、動かす、 車を運転する、冷やす、温める
学習項目 ・いつから～です (か)。 ・V ないでください。 ・～んです (けど)。 ・病院の語彙	

～分	テーマ	活動
【1 限】 90 分 (入江)	体の部位/ 症状/病院 に関する語 彙	・身体の部位についての説明・学習 ・～が痛い、～が痒い ～が出ます (鼻水・せき・く しゃみなど) などの症状を伝える言い方の説明・学習
	どんな症状 の時にどん な病院に行 くか	・内科、外科など病院の名称についての説明・学習
	病院の受付 での会話	・病院に行く→保険証→受付→問診票の記入など、病院 にはじめて行った時に受ける流れについて説明・学習
	問診票	・問診票に書かれている意味について説明・学習 (アレ

		ルギーはありますか、お酒を飲みますか、手術を受けたことはありますか、など)
	診察で症状を伝える	<ul style="list-style-type: none"> ・待合室は何をしたらいいか、診察室は何をしたらいいかの確認 ・症状と、それがいつからかを伝える文型の導入 「いつから～ですか」 / 「〇〇日前から～んです」 「～て、～んです (例：熱があつて、くしゃみが出るんです)」
【2限】 45分 (入江)	原因を伝える	「何か変わったものを食べましたか」 / 「〇〇を食べました」
	診察中の指示	<ul style="list-style-type: none"> ・医者への指示・質問の文型導入 「～てください (例：口をあけてください)」
	帰宅後の指示	<ul style="list-style-type: none"> ・帰宅後に気を付けることの文型導入 「～てください (ゆっくり休んでください)」 「～しないでください (お風呂に入らないでください)」
	診察を受ける練習①	<ul style="list-style-type: none"> ・【反復練習】 ⇒①医者への質問に答える (「どうしましたか？」 / 「2日前から頭が痛いんです」) ②「～て、～が痛いんです」、の反復練習 (腰が痛くて、頭が痛いんです)」
45分 (飯田か)	診察を受ける練習②	<ul style="list-style-type: none"> ・【ロールプレイ】 ⇒「～から～が痛いんです / 痒いんです / 吐き気がするんです」などの症状について医者とのやりとりをする ①実習生が医者役になり、生徒が患者役で全体練習。 ②日本人とペア練習 (実習生：医者役、学習者：患者役) ※最初はプリントに書かれている語彙 (症状、理由) を使い、徐々にプリントを見ないでロールプレイができるようにする。
【3限】 15分 (入江)	2限の復習	<ul style="list-style-type: none"> ・症状があらわれた理由を説明する (復習) 「何をしましたか？」 / 「重いものを持ち上げました」 ・症状の説明をする (復習) 「～て、～んです」 ・「～しないでください」の意味確認、練習 (復習) 「お風呂に入らないでください」
60分	会計をする	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の飲み方・種類を表す語彙を説明

(久野)		<ul style="list-style-type: none"> ・処方箋、領収書、会計等必要な語彙の意味といつそれらが必要かなどの説明
	薬を受け取る／飲み方を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ・薬の飲み方についての説明、理解 「こっちの錠剤は朝と夜の食後に2錠ずつ飲んでください」 ・聞き返しについての練習 「この薬は、ビタミン剤と一緒に飲んでも大丈夫ですか」
15分 (入江)	全体通しての練習	<ul style="list-style-type: none"> ・【ロールプレイ】⇒教師が医者／薬局の人役をやり、学習者が患者役で、病院に行つて薬をもらつて帰る一連の流れをロールプレイで再現する。

反省	
<p>1、2限は出ても3限は無理、2限は出ずに1、3限は参加、というように一コマ休んでから出る学生、もしくは3限は出ないという学生が1人増えてしまった。日本語を子供に教えているような日本語で話さずに、しかし丁寧にわかりやすく説明するというのは難しいと感じた。(飯田) 今日はかなりたくさんの語彙を提示したが、学習者の中には問題なく理解できている人もいた。ものたりないかもしれないと思い、最後のロールプレイでは少しアレンジして授業中にやらなかった語彙をいれたり文を長くしたりしてみたが、すらすら会話していた。全体的に文型は定着しているものが多いように感じたが、語彙はまだ知らないものも多く、かといってあまりたくさん知らない語彙を導入すると学習者が混乱するので、難しく感じた。語彙を絵で示すと説明もしやすく、わかりやすい。しかし難しい語彙を英語でふいに確認されることもあるので、英語訳はしっかり覚えておかなければいけないと感じた。(久野)</p>	

7日目 2月21日(火)	担当：梶原、飯田り、國澤(TA)
学習目標 ・不満を述べたり謝ったりすることができる。	新出語彙 【名詞】 研究室、オムライス、サラダ、ピザ、おつり、温度、インターホン、〇〇号室、者(もの)、約束、事故、けが、目覚し時計、締切り、予約、迷惑 【イ・ナ形容詞】 新しい、大事だ 【動詞】 忘れる、汚す、壊す、割る、借りる、返す、困る、持って来る、持って帰る、気をつける、頼む、足りない、上げる、下げる、(迷惑を)かける、謝る、遅れる、注文する 【その他】
学習項目 ・～んですけど。／～んじゃないんですけど。 ・Vてしまいました。／Vちゃった。 ・すみませんが、～。 ・Vてもらえませんか。／Vていただけませんか。	

実は、しかたがない、お楽しみのところ、申し訳ない

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (國澤)	謝る	<ul style="list-style-type: none"> ・導入：どんな時に謝るかクラス全体で話す。 ・ロールプレイ：遅刻して先生に謝る。 ・遅刻して先生に謝る時の談話を全員で確認。 ・「～んです」の練習。 ・ロールプレイ：約束の時間に遅れて来た学生と先生の会話。 ・友達同士の話し方導入+練習。 ・ロールプレイ：期日にレポートを出せない時の学生と先生の会話。
【2限】 45分 (梶原)	謝る	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vてしまいました」導入+フォーム確認 ・「実は～んです」導入 ・モデル会話導入+練習 ・「Vちゃった」導入+フォーム確認 ・友達同士の場面（友達の携帯を壊してしまって謝るなど）のモデル会話を練習
45分 (國澤)	苦情を言う	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店で苦情を言う時に使う表現を導入 —すみません、～なんですけど／～じゃないんですけど。 ・ペアワーク：クレームを言う客と店員 ・飲食店での苦情に関する様々な談話導入 ・ロールプレイ：お店で苦情を言う。
【3限】 45分 (國澤)	苦情を言う	<ul style="list-style-type: none"> ・談話導入：（相手の気分を害さないように気を付けながら）お店で苦情を言う、迷惑な行為をしている他人に苦情を言う。 ・「Vていただけませんか」、「Vてもらえませんか」導入。 ・ロールプレイ：導入した談話と類似する場面。
45分 (飯田り)	苦情を言う、 謝る	<ul style="list-style-type: none"> ・3限目前半の復習：レストランで苦情を言う、電車の中で苦情を言う。 ・談話導入：隣人の騒音に対して苦情を言う。苦情を言われて謝る。 ・導入したモデル会話をペアで練習。 ・ロールプレイ：隣人の騒音について大家さんに相談する。

反省	
<p>導入した文型の中でも、「V てしまう」と「V ちゃった」に関しては、最後までちゃんと覚えていない学習者が居た。もっと「V てしまう」と「V ちゃった」の練習を増やした方が良かったかもしれない。授業では、学習者の得意・不得意に合わせて、練習量を増やしたり減らしたりする必要がある。教師は、その場で臨機応変に対応しなければいけないということを再認識した。</p> <p>また、学習者が分からない語彙が出てきた時に、どのように説明するかという課題も残った。とっさに語彙の説明をするのは簡単なことではないが、できるだけ学習者にとって分かりやすい説明を心掛けたい。</p>	

8日目 2月22日(水)	担当：梁、高橋、田中(TA)
<p>学習目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かを依頼したりお礼を述べたりすることができる。 	<p>新出語彙</p> <p>【名詞】</p> <p>研究計画、論文、アウトライン、発表、レジメ、レポート、送別会、パーティー、乾杯のあいさつ、奨学金、推薦状、在学証明書、外国人登録書、両面写し、指導教員、締め切り、応募エントリーシート、申込み、e-mail、件名、ノック、シャワー、蛍光灯、市役所、ガス会社、自転車</p> <p>【動詞】</p> <p>依頼する、お願いする、頼む、報告する、直す、お礼を言う、発表する、応募する、引っ越す、引越しする、壊れる、(大学院に)進む、(国で)働く、(シャワーが)出る、(蛍光灯が)切れる、取り換える、チェックする</p> <p>【その他】</p> <p>Nのためのお願い(句)</p>
<p>学習項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・～てくださいますか。 ・～ていただけませんか。 ・～ていただけないでしょうか。 ・～てくださり、ありがとうございました。 ・～ていただき、ありがとうございました。 ・～ことになりました。 ・～たいんですが、～てくれませんか。 	

～分	テーマ	活動
<p>【1限】 30分 (田中)</p>	<p>奨学金申し込み時に必要な推薦状をもらう</p>	<p><文型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・～てくださいますか。 ・～ていただけませんか。 ・～ていただけないでしょうか。 <p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型導入と練習

60分 (梁)	Eメールで先生に印鑑・サイン・推薦状の依頼を書く	<p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスク：Eメールを書く －悪例の提示と修正 －発表
【2限】 90分 (高橋)	先生の研究室へ行き、サインと印鑑をもらう	<p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスク：研究室訪問 －モデル会話の導入 －ディクテーション －練習
【3限】 90分 (田中)	お礼を述べる／奨学金が通った報告をする	<p><文型></p> <ul style="list-style-type: none"> ・～てくださり、ありがとうございました。 ・～ていただき、ありがとうございました。 ・～ことになりました。 ・～たいんですが、～てくれませんか。 <p><授業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文型導入と練習 (・先輩や友達に対する依頼表現)

反省

一日の流れを考えて、特別に「書く」ことを学習項目に取り入れた(1限)。具体的には、奨学金に関する書類へのサイン・捺印を指導教員に依頼するEメールを書く、という作業である。しかしながら、Eメールを書くためにはEメールに特有な表現や敬語の知識が前提となるが、これらを体系的には理解できていない本実習の学習者にとっては、この学習項目は難しすぎたため、授業の進行にやや乱れも生じてしまった。こうした事態を事前に想定し、授業内容を考える必要があったように思う。また、「奨学金」をテーマとして扱ったことで、目上の人(指導教員)だけを会話の相手に想定する授業構成となってしまったが(2限)、インフォーマルな場面での感謝・依頼表現も、授業に組み込むことができれば、なお良かったと思われる(この点については、我々側では組み込むことができなかったが、TAの田中さんが少ない残り時間の中で〈親しい先輩や友人への依頼〉を授業に盛り込んで下さった)。また、5日目(17日)でも報告した通り、苦手意識から、文型導入をすべてTAの田中さんに任せてしまったという点も、大きな反省点である。

9日目 2月23日(水)	担当 : 飯田り、梶原、國澤(TA)
学習目標 ・許可を求めることができる。	新出語彙 【名詞】
学習項目 ・Vでもいい(よろしい)ですか。 ・Vなければならないんです。 ・なきやいけなくて…。 ・Vさせてもらえ(いただけ)ませんか。 ・～なら、いいですよ。	両親、空港、締切、飲み会、書類、カーテン、アルバム、順番、化粧 【イ・ナ形容詞】 具合が悪い、大事だ、夜遅い、恥ずかしい 【動詞】 案内する、早退する、迎えに行く、送る、(授業に)遅れる、お願いする、(荷物を)置く、(アパートを)出る

～分	テーマ	活動
【1限】 45分 (飯田り)	許可の求め方	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vでもいいですか」の文型導入と練習 ⇒①【場面：エアコンを消す、窓をしめる、写真を撮る…】 ②【場面：友達の家遊びに行ってもよいか聞く】 ・インフォメーション・ギャップを使ったペア・ワーク ⇒③【場面：お互いの家に行き、様々な許可を求める】 ・「Vでもよろしいですか」の導入と口頭練習 ⇒【場面：授業中、具合が悪くなり先生に早退の許可を求める】
45分 (梶原)	理由の述べ方	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vなければならないんです」の文型導入と練習 ⇒活動①【場面：先生に欠席・遅刻の理由を話す・締切を伸ばしてもらう】 ・「Vなきやいけなくて…」の文型導入とフォームの確認 ⇒活動②【場面：友達との約束のキャンセル理由を話し、代案を提示する】
【2限】 90分 (國澤)	許可を求める	<ul style="list-style-type: none"> ・「Vさせてもらえ(いただけ)ませんか」の文型導入と練習 ・談話の確認 ・ペア・ワーク(条件つきで)許可する・交渉する ⇒活動①【場面：パソコンを借りる…】 (相手の負担が高い内容) ・教室全体での活動(ロールプレイ：相手を説得し、相手から許可が下りたらサインをもらう) ⇒活動②【場面：相手の家に荷物を置かせてもらう、…】
【3限】 90分	特別活動	私の家族

反 省

実習生が担当した1時間目の前半と後半の活動内容にギャップがあり、その日全体のお互いの担当部分を意識することが大切だと感じた。これは、1日の最終目標を達成するためにそれぞれの時間にどういう活動をするのかという視点が欠けていたことから生じたギャップである。教案作成時から、1日の構成を意識するべきであった。どの場面を取り上げるのかを吟味し、フォーム練習の動詞の選択も、網羅的に、少し多めに準備しておくことが必要だと実感した。学習者の様子を見ながら必要かと思われる情報を随時入れたり導入の順番を入れ替えたりして、場面に応じフレキシブルに対応できたように思う。実習3日目だったので、時間調整も比較的うまくいった1日であった。

10日目 2月24日(金)	担当：飯田か、久野、入江(TA)
学習目標 ・二つ以上のものを比較することができる。	新出語彙 【名詞】 監督、出演者、日当たり、バルコニー、洋室、クローゼット、キッチン、ユニットバス、家具、徒歩～分、オートロック、洗濯機、～帖、降水量、最高気温、最低気温、気温、図、割合、学歴、短大、高専、短大、大学、大学院卒、卒業、～歳、学歴、年齢別、再就職先、理由、技術、経験、資格、不足、有給休暇、調査、会社員、公務員、～歳以下、～歳以上、全体、年代別、代、入浴、家庭での食事、外食、コンビニ、ファーストフード、ファミリーレストラン、買い物、テーマパーク、遊園地、動物園、散歩、ホームページ作成、ネット検索、ドライブ、バッテリー、画面、メモリ 【イ・ナ形容詞】 厳しい、大きい、小さい、きれいな、新しい、古い、静かな、賑やかな、良い、悪い、有名な、高い、安い、低い、便利な、不便な、おもしろい、つまらない、楽しい、近い、遠い、速い、遅い、暖かい、涼しい、危険な、広い、狭い、安全な、暑い、寒い、ちょうどいい、うるさい、薄い、使いやすい 【動詞】 (写真を)撮る・ズームする、探す
学習項目 ・「AはBより～です。」 ・「AとBとどちらが～ですか。」 / 「A/Bの方が～です。」 ・「AはBほど～ない。」 ・「～ないです。」 ・「AとBとCの中でどれがいちばん～ですか。」	

～分	テーマ	活 動
【1限】	比較	・「AはBより～です」の文型確認

60分 (久野)		<ul style="list-style-type: none"> ・形容詞のドリル練習 ・「AとBとどちらが～ですか」「A/Bの方が～です」の文型確認
30分 (飯田か)		<ul style="list-style-type: none"> ・「A/Bの方が～です」を絵カードを使ってドリル練習 ・「AはBほど～ない」の文型確認 ・「～ないです」を絵カードを使ってドリル練習
【2限】 45分 (飯田か)	比較のタスク	<ul style="list-style-type: none"> ・タスク<グラフの情報を比較する> 折れ線グラフを用いて、グラフの情報を比較する。
45分 (入江)	比較のタスク 3つ以上の物を比べるとき の文型導入	<ul style="list-style-type: none"> ・タスク<映画を比較する> ・タスク<アパートを比較する> ・「AとBとCの中でどれがいちばん～ですか」の文型導入 ・「～そうです」「～と思います」の文型導入
	比較のタスク 3つ以上の物を比べるとき のタスク	<ul style="list-style-type: none"> ・タスク<パソコン・カメラを比較する> ・タスク<どこの国にいきたいですか> ・全体の復習
【3限】 90分 (久野・飯田か)	特別活動	私のお気に入り

反省

クラスの雰囲気良くなって、留学生の方たちがお互いよくコミュニケーションをとるようになった。一緒にお昼を食べに行っていたのだと言っていた。タチヤにいっしょに行こうと学習者AがTを誘っていた。(飯田)ドリルをもっとテンポよくやるべきだった。難しい言葉をたくさん使ってしまい、ティーチャートークをもっと考えて事前に準備するべきだと反省した。形容詞は簡単なものから難しいものへ段階的に提示した方がよかった。また、「そう」をもう少し時間をかけて復習したほうがよかった。教案を頻繁に見てしまったので、次はもっと事前に覚えるよう心掛けたい。(久野)

11日目 2月27日(月)	担当：飯田か、久野
学習目標 ・10年後の私について発表できる。 ・インタビューすることができる。	新出語彙 【名詞】 インタビュー、インド料理、～年後、までに、 ヒンズー語、合格、結婚、試験、 【動詞】 (家族を) 作る、(友だちに) なる 【その他】 なぜなら、その理由は、だから、それから、 そのために
学習項目 ・～までに ・～たいです ・なぜなら～からです	

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (飯田か)	特別活動	・10年後の自分
【2限】 90分 (久野)	一人語りの自己紹介	<インタビューをして「日本と外国の同じところ・違うところ」を知る> ・インタビューの仕方を確認・練習する ・インタビューに行く
【3限】 30分 (久野)	文型導入 発表準備	<「日本と外国の同じところ・違うところ」を発表する> ・「～そうです(伝聞)」の文型を復習する ・比較表現の復習をする ・タスクシートを使って発表内容をまとめる
60分 (飯田)	発表	・インタビュー結果を発表する

反省
<p>「(だ) そうです」をもう少し時間をかけて説明した方が良かったかもしれないと思った。また、発表の時間が少し余ったので、感想シートのメッセージ欄を書く時間をもう少し長くとっても良かった。モデル会話をもっとリピートさせて、発話量を増やすべきだった。時間配分はほぼうまくいったと思う。インタビューは春休みで人が少なかったため、協力してくれる日本人を探すのが少し大変だった。インタビューのために生協に入ったら注意されてしまったので、今後もしインタビュー活動をするときは、生協には入らないように注意した方がいい。学習者はみんな積極的に日本人にインタビューしていた。(久野) クラスを始める前に、「おはようございます」でいき</p>

なりクラスをはじめるのではなくて、一人ひとりもしくは全体に向けて「元気ですか？」などの問いかけのようなものがあつたほうが良かったのではないかと思う。個人的には、実習の回数が増えるにつれ、反省点がよく見えるようになって、3限目の終わりに頭を抱えた。(飯田)

12日目 2月28日(火)	担当：筒井、川口
学習目標 ・電話でのやり取りができる。	新出語彙 【名詞】 電話番号、携帯電話、公衆電話、国際電話、留守番電話、間違い電話、市外局番、伝言、空室、一泊、チェックイン、カット、パーマ、カラー、110番、119番 【動詞】 (電話を)かける、かけ直す、 (電話に)出る、(電話を)切る 【その他】 もしもし、はい～です、 ～はいらっしゃいますか、話し中
学習項目 ・電話でのやり取りの際に用いる語彙 ・電話でのやり取りにおける開始部・終結部の会話の仕方	

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (川口)	特別活動	「好きな日本語・嫌いな日本語」について発表する。
【2限】 55分 (筒井)		
35分 (川口)	電話でのやり取り	◆電話でのやり取りで用いられる会話の確認 ・「電話をかけます」「電話に出ます」「電話を切ります」といった動詞の導入。 ・どのようなときに電話をかけるか確認。 ・電話での予約の際、どのような会話が行われるか確認。 ・留守番電話・間違い電話・電話での伝言の依頼の会話の確認。
【3限】 60分 (筒井)	緊急時の電話対応	◆語彙の確認 ・緊急時に用いる番号(110番、119番)を確認する。 ◆緊急時の電話対応の確認 ・事故等の緊急時の場面における会話をいくつか載せたプリントを用いて、緊急時の電話でのやり取りの仕方を確認

30分 (筒井)	ロールプレイ	<p>する。</p> <p>◆Skype を用いたロールプレイ</p> <p>・学習者を2グループに分け、各グループ文系総合館 609・623 の部屋に分かれて、それぞれの部屋に置かれたパソコンを用いて Skype による電話でのやり取りを行う。かけ手と受け手の両方をすべての学習者が担えるようにする。</p>
-------------	--------	---

反省

本来1時限目のみで行う予定であった発表が（タスクシートが少々難しかったためか）2時限目の後半までかかってしまったり、今回の授業の目標である「電話でのやり取り」を実際に行う3時限目の Skype を用いたロールプレイに多くの時間が割けなかったりなど、主に時間配分において事前の考えが足りていなかった。特に Skype を用いたロールプレイについては、振り返りの時間があまり取れなかったことが悔やまれる。

このような失敗を避けるためにも、タスクシートやプリントは、難しいものと簡単なものの二種類用意しておくなど、臨機応変に対応するための準備を事前に行っておくと良かった。

13日目 2月29日(金)	担当：梁、高橋
到達目標 ・ビデオレターを用いてお礼を述べるができる。	新出語彙 【名詞】 色紙、ビデオレター、区画、目印、思い出、実習生、教壇 【イ・ナ形容詞】 心強い、細かい 【動詞】 補足説明する、録画する、励ます
学習項目 ・日本の色紙及びビデオレターの文化	

～分	テーマ	活動
【1限】 20分		事後アンケートの記入
70分 (高橋)	特別活動	「日本に来て驚いたこと」について発表する。
【2限】 30分 (高橋)		

60分 (梁)	色紙とビデオレターの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちを伝えるには日本ではどんな方法がありますか。→色紙とビデオレターの導入 ・ビデオレターの展示 ・タスク1の紹介： 春季日本語コースの先生達にビデオレターを作りましょう ・モデルの展示 姿勢と内容の確認 感謝の表現の復習 ・タスクを再び説明し、原稿を作成する
【3限】 90分 (梁・高橋)	色紙とビデオレターの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオの撮影と色紙の作成

反省

2限後半において、実際に梁、高橋が撮影したビデオレターをモデルとして提示したが、この際ビデオレターの原稿が書かれたプリントを配布したにも関わらず、授業ではこれについて特に触れることはしなかった（表現、単語の確認などをしなかった）。単語確認の時間を設けていれば、活動系タスクが中心となる授業でも、学習を意識することが可能だったと思われる。また、学習者のビデオレター原稿の作成では、学習者が主体となって行う作業になることを想定して、特に書き方指導などは行わず、ワークシートの用意もしなかった。しかし、実際、授業を行ってみると、開始の指示を出しても、学習者がなかなか動いてくれないという事態が生じた。ワークシートがあれば、学習者が活動に着手しやすくなったかもしれない。事前準備が必要だった。

4.3 特別活動

以下、2/23（月）から3/1（水）、合計6日間の特別活動の授業報告である。

1日目 2月23日(水)	担当：飯田り、梶原
学習目標 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の発表体験を振り返る。 ・どのような発表がいい発表かを考える。 ・相互評価の観点を決める。 ・発表を聞いて、内容について質問することができる。 	新出語彙 <ul style="list-style-type: none"> 【名詞】 冗談、笑顔、発表 【動詞】 気をつける、

学習項目 ・Vたほうがいいです/Vないほうがいいです ・すみません、ちょっといいですか。/質問してもいいですか。 ・～について、詳しく知りたいんですけど。 ・～について、詳しく教えてくださいませんか。	緊張する 【その他】 詳しく
---	-----------------------------

～分	テーマ	活動
30分 (梶原)	よい発表とは何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・導入 ・ペアで、ワークシートの質問項目を話す。 ⇒自分の発表体験について振り返る。 ⇒よい発表について、考え、話し合う。
15分 (飯田)	質問の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・表現導入 ・確認
10分 (飯田・梶原)	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにメモをする。 ・「家族」というテーマの発表内容について考える。
35分	発表	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に発表し、質疑応答する。

反省
<p>大きな反省点として、次の2点があげられる。(1)翌日の担当者につなげる配慮の欠如(2)「発表の始め方・終わり方」という視点の欠如である。特に(1)に関しては、特別活動全体を通じての反省点としても挙げられるかもしれない。使用語彙等の連絡もできなかった。特に、初日は相互評価の観点を定める日でもあったため、もう少し配慮が持てる良かったと思う。また、(2)に関しては、参加学習者はもう通常の授業で発表経験があったため、こちらから言わなくても自然にできていたが、未経験の学習者だったら、混乱を招いていたと思われる。</p> <p>教案作成段階では、教師によるモデル発表も準備していたが、時間が足りず学習者の発表を優先し、今回は行わなかった。時間配分に教案の作成時に無理があったことも反省点である。</p> <p>発表のテーマは「家族」という学習者にとっても身近なものだったため、活発な質疑応答が行われた。授業後にも学習者同士で、話しが続いており、雰囲気はとてもよかった。発表の質疑応答中、教師の介入はほとんど行わず、理解できなかった発表内容に関しても学習者同士で質問し、助け合って解決していた。今回はうまくいったが、教師がどの程度介入し、日本語の間違いを訂正するか、など事前に打ち合わせて、授業に臨めるとよかったと思う。</p>

2日目 2月24日(金)	担当 : 飯田か・久野
到達目標 ・私のお気に入りについて発表できる。	新出語彙 これまでの語彙(特になし) 【その他】 学習者の必要に合わせて随時指導
学習項目 ・から、ので	

～分	テーマ	活動
【3限】 30分 (飯田か)	文型導入	・文型導入とフォームの確認 ・理由を表す「から」と「ので」の導入
30分 (久野)	発表準備	・タスクシートを使って自分のお気に入りの様々なものについて考える ・ペアになって自分の好きなもの、ことについて話す
60分 (飯田か・久野)	発表	・発表・質疑応答 ・自分の好きなもの、ことについて発表する

反省
<p>全員とても発表をすることが好き(自分のことについて話すのが好き)なようで、とても元気に発表していた。(飯田) 書くという活動はやはり時間がかかり、好きなものをタスクシートに書いてもらったのに、学習者同士で共有しきれなかった。評価シートも難しすぎて書く時間が足りなくなった。誰かが語彙でわからないものがあると他の学習者が教えてあげたり、発表中に誰かが言葉に詰まると、だれかが文型を教えてあげたりしていて、非常に良い関係が出来上がっていると感じた。(久野)</p>

3日目 2月27日(月)	担当 : 飯田か、久野
学習目標 ・10年後の自分	新出語彙 【名詞】 インタビュー、インド料理、～年後、までに、ヒンズー語、合格、結婚、試験、 【動詞】 (家族を)作る、(友だちに)なる 【その他】
学習項目 ・なぜなら～だからです。	

	なぜなら、その理由は、だから、それから、そのために
--	---------------------------

～分	テーマ	活動
【1限】 20分 (飯田 か)	文型導入	文型導入 ・なぜなら、～だからです。 ・今、3年後5年後、10年後について話せるようになるための導入 ・導入—今私は～です。10年後までに、私は～になりたいです。
30分 (飯田 か)	発表準備	タスクシート記入 ・文型導入でのデモンストレーション+リピート練習を参考に、タスクシートに記入する。
40分 (飯田 か)	発表	発表・質疑応答 ・タスクシートをもとに、発表を行う。 ・他の発表者の発表について質問する。

反省
10年後の自分というテーマは、学習者の立場に立つと、ある具体的な計画（今と異なる）などがない学習者には（特に今と変わらない学習者）、ちょっと難しかったようだった。（飯田）

4日目 2月28日(火)	担当：筒井、川口
学習目標 ・「好きな日本語・嫌いな日本語」について発表することができる。	新出語彙 【その他】 まず、次に、最後に、初めて、そろそろ
学習項目 ・他の人にインタビューして得た情報を発表する際に用いる表現	

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (川口)	発表準備	◆導入 ・日本語で好きな言葉・嫌いな言葉、母語で好きな言葉を、数の制限なく挙げる。 ・その理由を答える。（前日の復習も兼ねて、「私は～が好きです。なぜなら、～からです。」という形を用いる。） ◆タスクシート記入 ・教師によるタスクシートのモデル提示を行う。 ・タスクシートに「好きな日本語・嫌いな日本語」「好きな

		母国語」について記入する。 ◆ペアワーク ・インタビュー形式で、ペアの相手の「好きな日本語・嫌いな日本語」「好きな母国語」を聞く。
【2限】 55分 (筒井)	発表	◆ペアでの発表 ・ペアの相手の好きな日本語・嫌いな日本語・好きな母国語について発表。 ・発表の振り返り。

反 省

通常クラス 12 日目の報告にも記載した通り、本来は 1 時限目のみで特別活動を終わらせるつもりが、2 時限目の半分以上の時間までかかってしまった。この原因として、タスクシートの内容が少々難しく、また量も多かったこと、そして、インタビュー活動に時間をかけすぎてしまったことが挙げられる。タスクシートの記入、ペアへのインタビュー、そして発表と、学習者にとっては負担が大きい活動が三つ続く構成になってしまったので、負担の少ない構成も考えておけるとよかった。

一方で、テーマ自体は学習者にとっても興味を持つことができるものだったが、休み時間中の会話などから窺えた。発表のテーマによって学習者同士の会話を促すことができるという新たな収穫があった点のみ考えれば、この発表は成功と言えるだろう。

5日目 2月29日(水)	担当：高橋、梁
学習目標 ・「日本に来て驚いたこと」について発表する。	新出語彙 【名詞】 区画、建物、目印
学習項目 ・発表における諸定形表現 ・私が日本に来て驚いたことは S/N です。	【その他】 一方

～分	テーマ	活 動
【1限】 30分		事後アンケートの記入
20分 (高橋)	日本語での発表を学習する。	<授業内容> ・モデル発表の導入 ・発表の流れの確認
40分	・発表原稿を作成する。	<授業内容>

【2限】 30分 (高橋)	・日本語で「日本に来て驚いたこと」について発表する。	・タスク：発表原稿の作成 ・発表と質疑応答
---------------------	----------------------------	--------------------------

反省
<p>他チームとの連携が取れていなかった。とくにこの日は、特別活動を開始してすでに5日経っていたわけであり、今さらモデル発表を導入してまで、発表の流れを確認する必要はなかったように思われる。とくに、我々のチームで用意したモデル発表は、発表に関する定形表現や文章構成など、形式面に重点を置いたものであり、他チームが説明したものとは若干の異なりがあったかもしれない（事実、特別活動の振り返りでは、「良い発表とは何か」という点で、実習生同士でも色々と意見が割れた）。結果として、学習者の混乱を招いた可能性も大いに考えられる。しかしながら、学習者の側では、ほとんど皆原稿を見ずに発表できていたり、自由記述を多めに設定したワークシート（原稿シート）であったにも関わらず規定時間内に原稿作成ができていたり、5日間の成果も見られた。5日目ということで、緊張もほぐれていたのかもしれない。</p>

6日目 3月1日(木)	担当：筒井、川口
学習目標 ・地震についての知識を深める。	新出語彙 【名詞】 リュックサック、乾電池、通帳、雨具、救急箱、軍手、ヘルメット、非難食品、津波、懐中電灯、ろうそく 【動詞】 揺れる、倒れる、くっつける、非難する、割れる、落ちる、しゃがむ、隠れる
学習項目 ・地震を経験したことについての有無 ・地震が起きたらどうなるか。どうすればよいか。 ・インタビューをし、まとめて発表する。	

～分	テーマ	活動
【1限】 90分 (川口)	地震について知識を深める	<ul style="list-style-type: none"> ・2011年3月11日の地震について、学習者・実習生に聞く ・地震を経験したことがあるかどうか、学習者の国には地震があるかどうか聞く ・地震が起きたらどうなるか・どうすればよいか（ペア+実習生一人で話し合い、発表する） ・3月11日の地震の映像を見る ・改めて、地震が起きたらどうすればよいか、紙に書いて考える ・インタビュー用紙の配布、説明

		・インタビューでの自由質問を考える
【2限】 90分 (筒井)	地震についてインタビューする	・インタビュー説明 ・インタビュー（実習生・先生に学習者がインタビューする） ・発表準備（ペアで双方のインタビュー結果をまとめる） ・発表
【3限】 90分	（ティーパーティー）	（ティーパーティー）

反省

今回はペアで発表した点、発表のモデルを与えなかった点がこれまでの発表と大きく異なったが、学習者はそれぞれ工夫して発表していた。質問も予想以上に多く出た。しかし、特殊な語彙（揺れる、くつつける、避難するなど）が多く、説明に時間がかかったため、発表の準備と発表にあてる時間が少なくなった。もっと時間配分を詳細にしておきどの活動に時間がかかるのか調整しておくべきだった。フィードバックをしたが、時間が押していたので非難用具などの語彙確認になってしまった。もう少し丁寧にできればよかった。

4.4 特別活動の反省と改訂

今回の実習における特別活動は、事前に十分な話し合いの時間が取れなかったこともあり、各チーム、様々な反省点が残った。しかし、今回の特別活動における一番の反省点は、「6日間でひとまとまりの活動」という意識が薄かったところにある。残念なことに、今回は各日の活動のつながりをあまり意識せずに、6日間発表活動を行ってしまった。その結果、6日間一貫して発表活動を行ったものの、一日一日が独立しており、6日間の成果というものは見出しづらかった。

今回の特別活動の反省を踏まえ、実習生で再度話し合い、特別活動の授業デザインを作り直した。新しい授業デザインにおいては、6日間で一連の流れだということを意識して目標を設定し、他の授業とのつながりを考慮しながら授業内容を決定した。以下に、作り直した授業デザインを掲載する。

日時	① 2/23(木)3限	② 2/24(金)3限	③ 2/27(月)1限
目標	発表に必要な形式、表現を学習し、良い発表とは何か考える。		良い質疑応答とは何かを考え、実践することができる。
内容	(1)導入 ・「発表とはどういうものか？」 (ごく簡単に行う) (2)ペアワーク ・日本に来てびっくりしたことについて話し合う ・ワークシートⅠを使用(形式には触れない) (3)発表+質疑応答 ・一人ずつ行う ・録画する(②(3)で使用する) ・テーマ:「日本に来てびっくりしたこと」 ・学習者から「質問はありませんか」という言葉が出なかった場合は教師から問いかける。 (4)ワークシートⅡの記入(②(1)で使用する) 「何に注意して発表したか」 一声の抑揚、姿勢 発表に特有の日本語の表現 など	(1)振り返り 「発表で皆が意識した部分はどういう部分か」 ・①(2)を板書するorプリントにまとめて配布する (2)ビデオ鑑賞 ・①(1)を使用する (3)話し合い ・学習者側から良い点・悪い点を引き出す。 ・学習者から引き出せなかったものは、教師が提示する。 ・「良い発表とは何か」について、学習者&教師間で意識を共有する。 ※重要視したい点 (i)日本語による発表という観点から見た「良い発表」 一発表の始め方・終わり方 一質疑応答に入る前の表現 など (ii)個別言語に限定されない「良い発表」 一声の抑揚・大きさ、姿勢 一なるべく原稿を見ない など ・話し合われた内容をプリントにまとめる(③に配布する) ※発表・原稿作成に活用する→③以降での発表活動において、スクリプト等は用意しない。	(1)振り返り ・プリント(②(3-ii))をもとに行う (2)発表準備 ・テーマ:私の国の観光スポット (3)数名発表・質疑応答 ※録画する
日時	① 2/28(火)1限	② 2/29(水)1限	③ 3/1(木)1・2限
目標	良い質疑応答とは何かを考え、実践することができる。	人から聞いたことをまとめて発表できる。	人から聞いたことをまとめ、形式に沿って自分の意見を含め発表できる。
内容	(1)VTR(27日に発表した人のもの)を見て、23日の発表よりも27日の発表の方が良くなっていることを確認し、良い質疑応答とは何かを話し合う。 (2)学習者(27日に発表しなかった人)の発表・質疑応答 ※録画する (3)VTR(28日に発表した人のもの)をみて、質疑応答のふりかえり (4)教室以外の場面で発表で使われる表現の確認 一学会発表 など	(1)導入:インタビューとは? ※授業ですでに習ったことを思い出させる。 テーマ:私のお気に入り (2)インタビュー実施 (3)インタビュー結果をまとめる・発表準備 (4)発表・質疑応答	1時間目 (1)導入・重要語彙の確認 ・テーマ:地震 (2)ペアワーク 一地震が起きたらどうしますか? など (3)発表①:ペアごとにまとめて述べる (4)ビデオを見る+感想 (5)本日の活動について説明 (6)自由質問を考える (7)インタビュー実施 2時間目 (8)発表準備 (9)発表②・質疑応答 (10)6日間を振り返る 一発表に対する自分の意識が変わったか など

《全体目標》

良い発表とは何かを考え、日本語で発表・質疑応答ができる。

<1日目・2日目の目標>…2/23(木)3限、2/24(金)3限
 発表に必要な形式、表現を学習し、良い発表とは何か考える。

<3日目・4日目の目標>…2/27(月)1限、2/28(火)1限
 良い質疑応答とは何かを考え、実践することができる。

<5日目の目標>…2/29(水)1限
 人から聞いたことをまとめて発表できる。

<6日目の目標>…3/1(木)1・2限
 人から聞いたことをまとめ、形式に沿って自分の意見を含め発表できる。

(文責:飯田り)

第5章 事後アンケートの結果

5.1 はじめに

2月29日（コース最終日の前日）に、事後アンケートを行った。なお、本年度は、次年度の実習に生かすための「授業についてのアンケート」と、学習者各自が自らの達成度を確認するための「日本語学習の記録」の二種類のアンケートを実施し、「日本語学習の記録」については、コピーを取り最終日に学習者に返却した。（詳細は第二章第二節参照。）以下に、事後アンケートの結果を示す。

5.2 事後アンケート結果

【「授業についてのアンケート」の結果】

1. 授業の内容は、満足できるものでしたか？

1（不満足）	2	3	4	5（満足）
0	0	0	2	2

自由記述	・私の弱点が話すことと聞くことなので、よかったです。
------	----------------------------

2. 授業の中で、良かったと思うところがありますか？

ある	ない
4	0

自由記述	<ul style="list-style-type: none">・先生がたくさんいるので、よく話せます。・たくさん話しました。きれいし、親切な先生は本当によかったです。・がくせいがすくないからもっとたのしかったとおもいます。そしてまいにちちがうせんせいたちがいるのもよかったです。・たくさん、れんしゅうします。
------	--

3. 授業の中で、悪かったと思うところがありますか？

ある	ない
3	1

自由記述	<ul style="list-style-type: none">・時々、理論がちょっとあり過ぎます。・There could be more advertisement at school, and there would be more students.
------	--

	・すべて
--	------

4. 他にもっと勉強したかったことはありますか？

ある	ない
4	0

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・でも、私に、毎日がちょっと長いです。(その時けんきゅうもします) ・たくさん話したいです。 ・はい！！でも、じかんによる。
------	--

5. 授業の中で、たくさん話すことができましたか？

1 (できなかった)	2	3	4	5 (できた)
0	0	0	1	3

自由記述	・すごい！
------	-------

6. コースの期間 (2/13~3/1) は、適切でしたか？

長い	ちょうどいい	短い
0	3	1

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・何日が OK だけど、毎日、ちょっと時間をかかり過ぎます。 ・1 か月だったらいいと思います。
------	---

7. 授業が始まる時間・終わる時間は適切でしたか？

早い	ちょうどいい	遅い
0	4	0

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・その前にすこしけんきゅうできましたから。 ・朝 8:45 からほがいいと思います。 ・でも、9時から 14:30 まではちょっとながいとおもいます。
------	---

8. お昼休みの長さは適切でしたか？

長い	ちょうどいい	短い
0	1	3

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間だったらいいと思います。 ・みじかすぎます。。。
------	---

9. 授業の時間 (90分×3コマ) は適切でしたか？

長い	ちょうどいい	短い
2	2	0

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかのこたえを見てください。 ・90分×2コマのほうがいいとおもいます。
------	--

10. クラスのレベルは、自分に合っていましたか？

むずかしい	ちょうどいい	かんたん
0	3	1

自由記述	・たぶん、理論がちょっとかんたん、でも、話しがよかったです。
------	--------------------------------

11. クラスの人数は適切でしたか？

多い	ちょうどいい	少ない
0	3	1

自由記述	・たぶん、10人はいいので、楽しかった！
------	----------------------

※「適切な人数は何人だと思いますか？」に対する回答はなかった。

12. 先生の話していることはわかりましたか？

1 (わからなかった)	2	3	4	5 (わかった)
0	0	0	2	2

自由記述	(なし)
------	------

13. コースが始まる前より、話すことに自信がつけましたか？

1 (つかなかった)	2	3	4	5 (ついた)
0	0	0	3	1

自由記述	・そのはずです！
------	----------

14. 参加する前に期待していたことと違ったことはありますか？

ある	ない	未回答
1	2	1

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を早くはじめたらよかったです。 ・I didn't expect so many presentations, but it is very helpful, and I didn't expect camera recording, but it is nice(??) to have it.
------	--

15. 来年もコースがあれば参加したいですか？

したい	したくない	未回答
3	0	1

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・でもけんきゅうによって、できるかどうか今知りません。 ・でも、来年日本で住んでないです。残念です。 ・ But I will be back to country in August. ・ 来年は日本にいません。。
------	---

16. その他、自由に書いてください。

自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった！ ・授業を本当に、ありがとうございました。 ・ない。。
------	--

【「日本語学習の記録」の結果】

(1 : とても自信がある 2 : だいたい自信がある 3 : あまり自信がない 4 : まったく自信がない)

	1	2	3	4
自己紹介・友達の紹介ができます	1	2	0	1
誘ったり、誘われたときに断ったりできます (※)	0	3	0	0
アドバイスをしたり、アドバイスを求めたりすることができます	0	3	1	0
道がわからないとき、ほかの人に聞くことができます	0	3	0	1
図書館や旅行会社などで、手続きができます	0	4	0	0
病院に行って、医者にどこが悪いか話すことができます	0	4	0	0
不満を伝えたり、自分が悪いときにあやまったりすることができます	0	4	0	0
何かをお願いしたり、お礼を言ったりすることができます	0	3	1	0
許可を求めることができます	0	2	2	0
二つ以上のものを比べることができます	1	2	0	1
電話をかけて、相手と話すことができます	0	3	1	0
日本語で発表することができます	1	2	1	0
合計	3	35	6	3

(※未記入1名)

5.3 事後アンケートの結果を踏まえて

【「授業についてのアンケート」の結果を踏まえて】

- ・「話すことを中心とする」クラスであることを、実習生全員できちんと共有できていると良かった。（「3. 授業の中で、悪かったと思うところがありますか？」の自由記述より）
- ・事前の宣伝をより積極的に行えると良かった。（「3. 授業の中で、悪かったと思うところがありますか？」の自由記述より）
- ・9:00～14:30（90分×3コマ）は長いという意見が多かった。（4,6,7,9の回答及び自由記述より）
- ・昼休みの時間が短いという意見が多かった。（「8. お昼休みの長さは適切でしたか？」の回答及び自由記述より。）1限を早めに始めるか、昼休みの時間を長くして3限の時間を遅くすることを検討してもよいと思う。
- ・2月23日～3月1日に行った発表は学習者に好評だったことが窺える。（「14. 参加する前に期待していたことと違ったことはありますか？」の自由記述より）

【「日本語学習の記録」の結果を踏まえて】

- ・ほぼすべての項目で、「2：だいたい自信がある」にチェックを入れる学習者が多かった。
- ・「3：あまり自信がない」及び「4：まったく自信がない」にチェックを入れたのはほぼ同じ学習者（Aさん）であった。当該の学習者は、出席した日・欠席した日に関わらず3もしくは4にチェックを入れていることから、出欠席と当該学習者自身が感じる達成度はあまり関係がないことが窺える。

（文責：川口）

第6章 まとめ

実習準備

2012年名古屋大学大学院日本語教育実習は、2/13（月）から3/1（木）にかけて計14日間行うこととなり、その実施に向けて1月より準備に入った。

初回の実習生会議では、本実習の基本理念の確認、チーム・ティーチングを行うメンバーおよび各担当日の確認、募集する学習者層の決定（募集対象クラスの決定）、各仕事の分担を行った。

実習実施

本コースでは、学習者の緊張を解くとともに、教師間の連携を見込んで、2/13（木）の初回授業をオリエンテーションとして設定し、自己紹介やゲームを行うなどして、明るい雰囲気づくりに努めた。しかしながら、「自分の求めていた内容とコース内容が合わない」などの理由から、参加を見送った学習者もいた。本実習において、学習者のニーズ分析に時間をとることができなかったことは、大きく悔やまれる点である。

しかし、その後、行った14日間の各授業では、1月の準備期間において設定したシラバス・デザイン（Can-Do statements）を前提として、各日とも、学習者の立場に立った、意義深い授業を行うことができた。限られた準備期間ではあったが、TA 4名の懇切丁寧なサポートもあり、皆、満足して実習を終えることができたと考える。

学習者に行った事後アンケートでも、「たくさん話すことができ良かった」「多くの先生がいて良かった」といった高評価を得ることができた。

実習全体

例年とは異なり、実習期間が春季のみに一本化され、またこれに伴って、実習参加者の数も多かったため、実習生同士の横の繋がりを、より強く意識する必要のあった教育実習だったのではないかとと思われる。

実習生の数が多いということには、「実習全体が華やかになる」「よりバラエティに富んだ授業を行うことができる」などのメリットだけでなく、「全員の都合を合わせるのが難しい」「意見に偏りが現れやすい」「引継ぎが正確になされない」などのデメリットもまた想定される。事実、本実習においても、こうした両面の影響が実習に及んでいた。とくに引継ぎなどに関わるデメリットは、特別活動の反省にもつながった点である（4.4 詳述）。

しかしながら、実習全体を通してみれば、日々切磋琢磨する中で芽生えた〈横の繋がり〉という共有意識によって、皆、高い士気を保ちながら、最後までチーム一丸となって実習を終えることができた。

本実習において我々実習生は、日本語教育の技術習得や教育理念の基盤を構築することができただけでなく、人間的成長をも遂げることができたと感じている。

(文責：高橋)